

2022 年度
学生調査報告

九州ルーテル学院大学

はじめに

九州ルーテル学院大学(以下、本学)では2016年度より毎年、IR委員会による学生の動向に関するアンケート調査を実施しております。2020年度においては、教育や学生支援の質の向上や大学運営の改善のためにさらにアンケート項目を改変しております。また2021年度より、学生のアンケート回答にかかる負担を軽減し回答率を向上させる試みとしてアンケートを「学修調査」と「学生生活調査」の2回に分割し時期を分けて実施しました。本調査アンケートはWEB上で実施されました。

地域に役立つ研究・実践と質の高い教育の保障を目指して向上を志す本学は、地域の皆さまや学生保護者の皆さまに説明責任を果たし、皆さまからご意見をいただくために、ここにアンケート調査結果を公表いたします。この報告書についてご意見・ご質問がございましたら、こちらまで(メール: inintelligence-c-klc@klc.ac.jp)でお知らせください。

調査概要

《調査対象者》

2022年度在学学生713名(内訳:心理臨床学科306名,人文学科こども専攻児童教育コース(以下,児童教育コース)112名,人文学科こども専攻保育コース(以下,保育コース)120名,人文学科キャリア・イングリッシュ専攻(以下,キャリア・イングリッシュ専攻)165名,その他(長期履修学生,大学院生)13名)。

《調査時期》

- 学修調査:2022年12月上旬から2023年3月下旬
- 生活調査:2022年12月上旬から2023年3月下旬

《調査方法》

調査対象者にwebアンケートを実施しました。学修調査は1年生と2~4年生でアンケートを分け、1年生にのみ入学以前に関する調査項目が追加された調査票を用いました。生活調査は1~3年生と4年生でアンケートを分け、4年生は卒業生満足度調査として実施しました。

アドバイザーや特別研究の授業(ゼミ)担当者が学生にwebアンケートに回答するよう依頼しました。また、卒業生満足度調査は卒業研究の提出時にも教務課から回答の依頼をしました。

《回収率》

回答項目によって若干異なりますが、回収率は学年ごとに以下のようになっています。

(生活調査)

1年:56名/187名(29.9%)
2年:35名/160名(21.9%)
3年:14名/159名(8.8%)
4年:181名/188名(96.3%)
その他:4名/19名(21.1%)
全学年:290名/713名(40.7%)

(学修調査)

1年:96名/187名(51.3%)
2年:40名/160名(25.0%)
3年:24名/159名(15.1%)

4年：161名/188名(85.6%)

その他：4名/19名(21.1%)

全学年：325名/713名(45.6%)

《分析方法》

回答データの基本集計として、在学生全体、学年ごと、学科・専攻・コースごとに人数、人数比率、平均値を算出しました。分析の便宜上、学生の所属ごと、学年ごとに分けて行われた分析においては科目等履修生、過年度生、大学院生、長期履修生のデータは除いて収集分析しています。

《調査項目の見直し》

2022年度調査より、一部の調査項目の見直しが図られました。

まず、生活調査の項目「大学教育の効用」に関する質問項目と学修調査の項目「知識能力の向上」に関しては、質問内容が似通っており、平均値がシフトしただけでほぼ同じ分布を示していました。また、各質問項目に関して相関を調べたところほとんどの項目に有意な正の相関関係が確認されました。このことから上記2つの質問項目はほぼ同一の性質のものであると判断し生活調査の「大学教育の効用」のみを残し学修調査の「知識能力の向上」は削除しました。

また、1年生は学修調査アンケートに入学前状況を尋ねる項目を追加した「入学・学修調査」を行っていますが、本学入試課においても同様のアンケート調査を行っているため学生の負担軽減のために入試課のアンケートと内容の近い質問項目を複数削除しました。

2021年度まで行われていた新型コロナウイルス感染症に関するアンケートに関しても2022年度より削除しました。

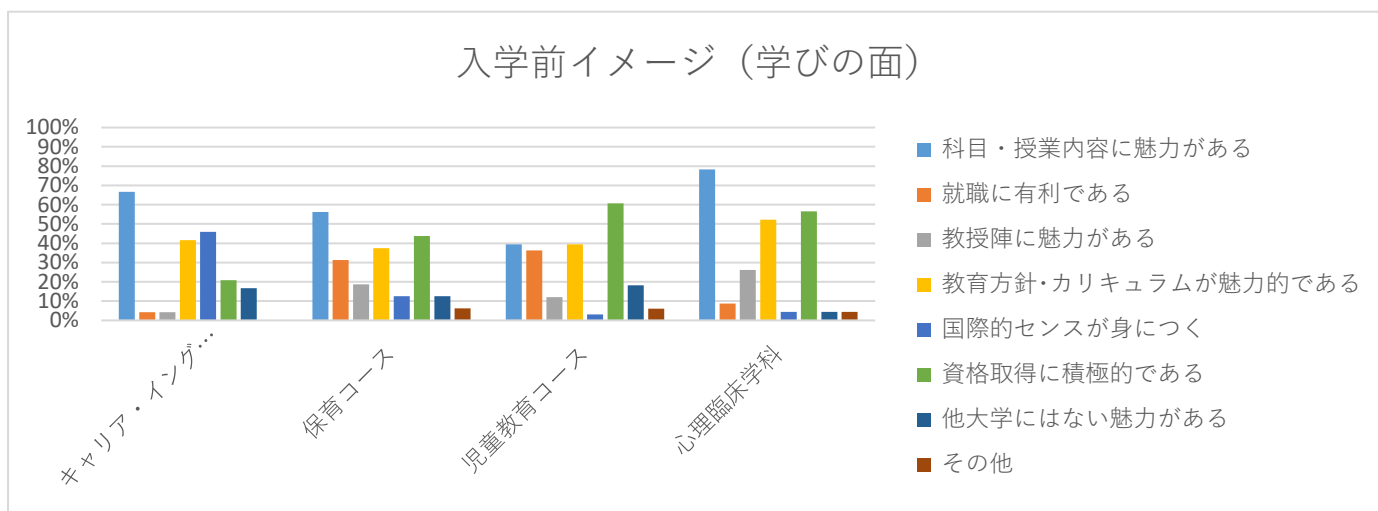
本学に対する入学前イメージ

1年生を対象に、入学前に本学に対してどのようなイメージをもっていたかについて「学びの面」と「その他の面」に分けて、該当項目を選択する形（複数選択可）で回答を収集しました。

学びの面

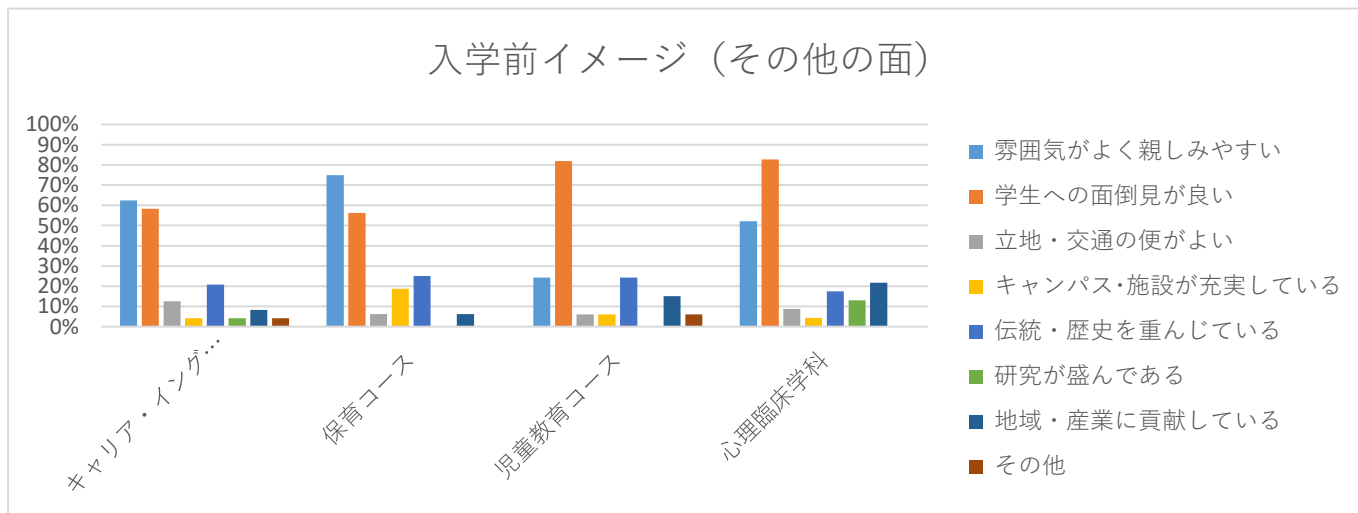
2021年度と同様、全体的に「科目・授業内容に魅力がある」「教育方針・カリキュラムが魅力的である」「資格取得に積極的である」というイメージを持たれているようです。キャリア・イングリッシュ専攻においては「国際的センスが身につく」が、心理臨床学科においては「科目・授業内容に魅力がある」が他の学科に比べて大きい比率で回答されており、本学を進学先として選ぶ上でもこの点は重要視されていたのではないかと推測されます。

また2021年度と比べるとキャリア・イングリッシュ専攻と心理臨床学科において「就職に有利である」の割合が減少している一方、保育コースと児童教育コースでは増加していることが見て取れます。



その他の面

その他の面に関しては、全学科・専攻で「学生への面倒見がよい」「雰囲気がよく親しみやすい」という印象が強いようです。2021年度とくらべると児童教育コースにおいて「雰囲気よく親しみやすい」の項目は大きく減少しているようです。

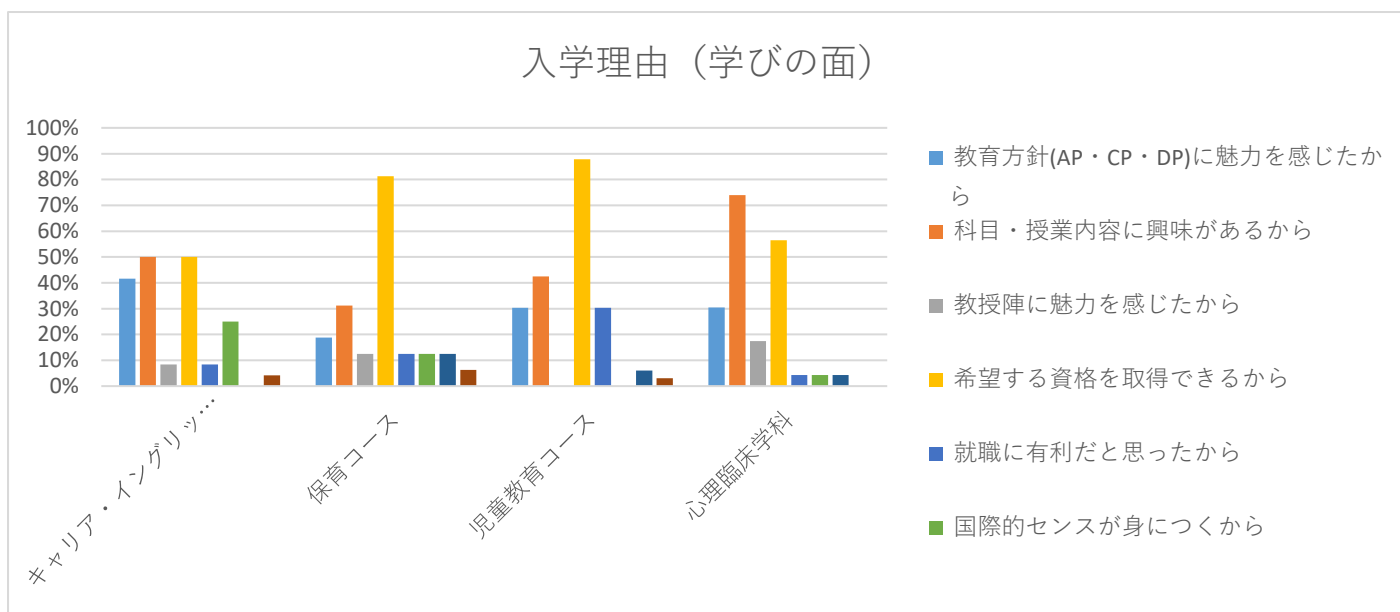


本学入学の理由

1年生を対象に、本学への入学を決めた理由について「学びの面」「学生生活の面」「その他の面」に分け項目を提示し複数回答可で選択するよう求めました。

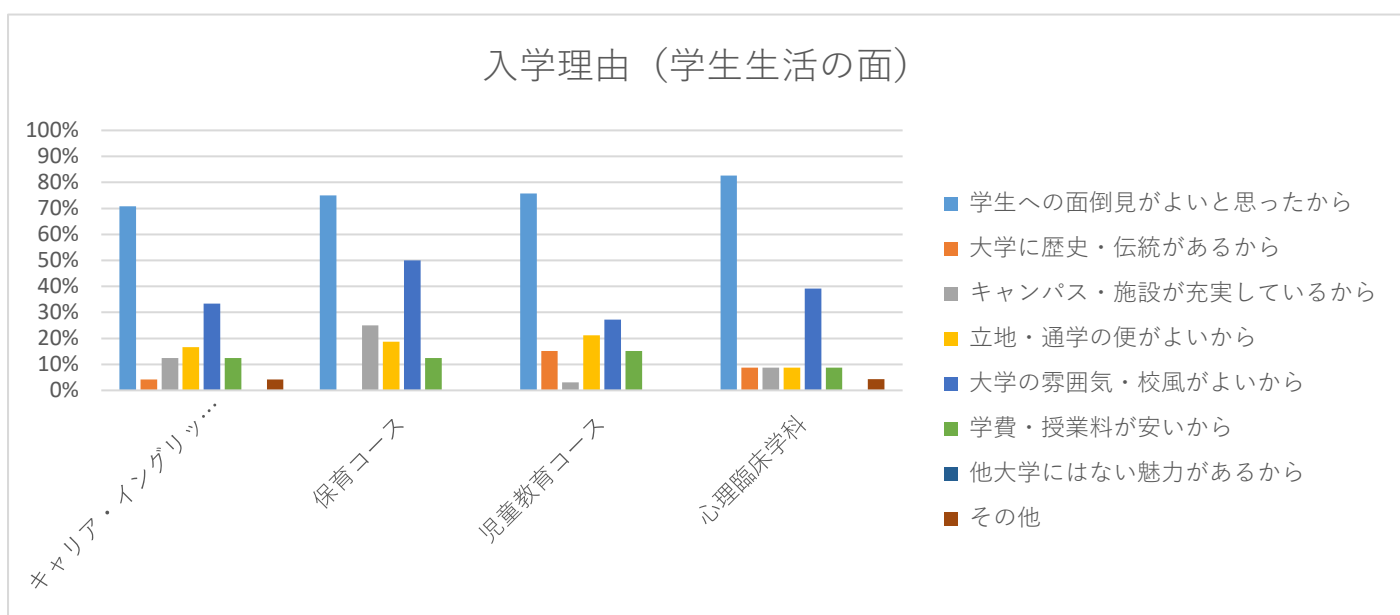
学びの面

学びの面に関しては2021年度調査と同様に「希望する資格を取得できるから」という回答の比率が高くなっています。2021年度はキャリア・イングリッシュ専攻では「希望する資格を取得できるから」が他学科専攻よりも低かった反面「国際的センスが身につくから」が高い割合となっていました。2022年度では比率の大小が逆転しています。



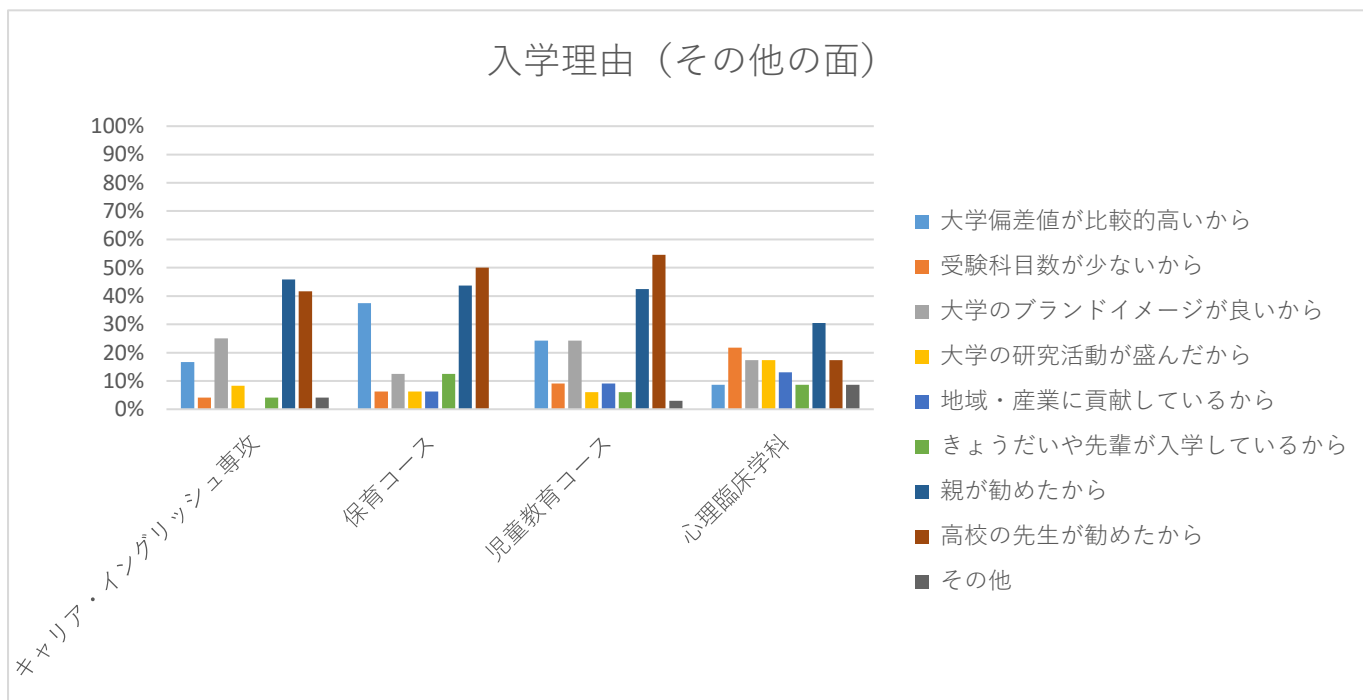
学生生活の面

学生生活の面に関しては、2021年度と同様、「学生への面倒見がよいと思ったから」「大学の雰囲気・校風がよいから」が高い割合で挙げられています。



その他の面

その他の面に関しては、2022年度はどの学科・専攻においても「親が勧めたから」と「高校の先生が勧めたから」という理由が高い割合で挙げられていました。これは2021年度には見られなかった特徴です。

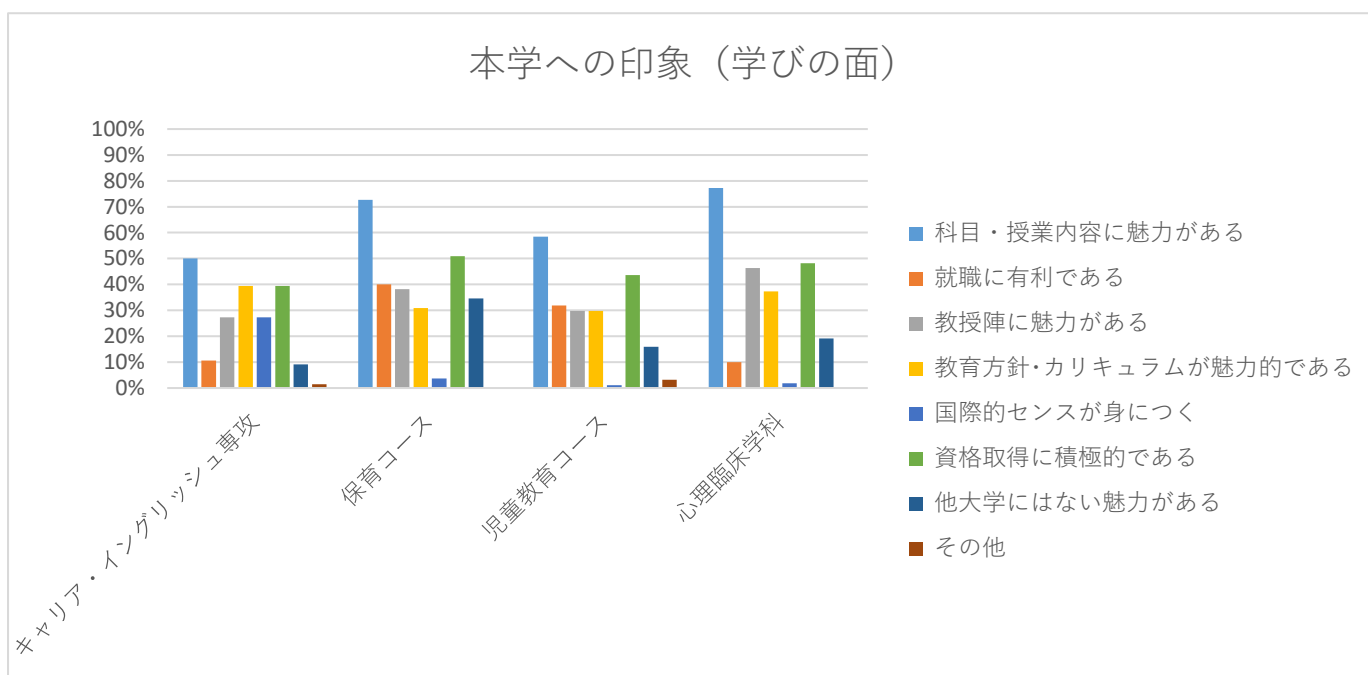


本学に対するイメージ(入学後)

本学に入学して、現在持っている印象を全学年に対して、「学びの面」「その他の面」に分けて、該当項目を選択する形(複数選択可)で回答を収集しました。

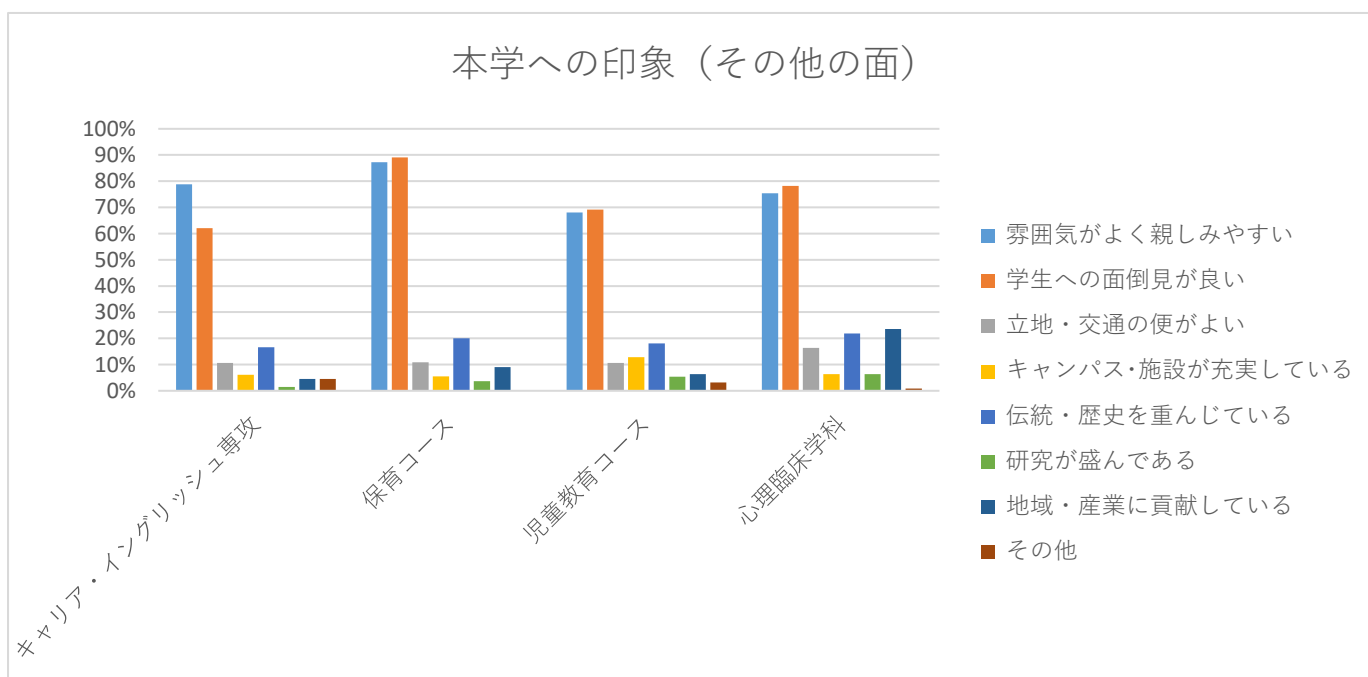
学びの面

学びの面に関しては2021年度と同様の回答の分布となっています。どの学科においても「科目・授業内容に魅力がある」「資格取得に積極的である」という印象を持っているようです。全学科・専攻・コースにおいて「教授陣に魅力がある」の割合が増えており、入学前には関わることのなかった教授陣と入学後に関わり始めたことで新たに抱いた印象であると思われます。



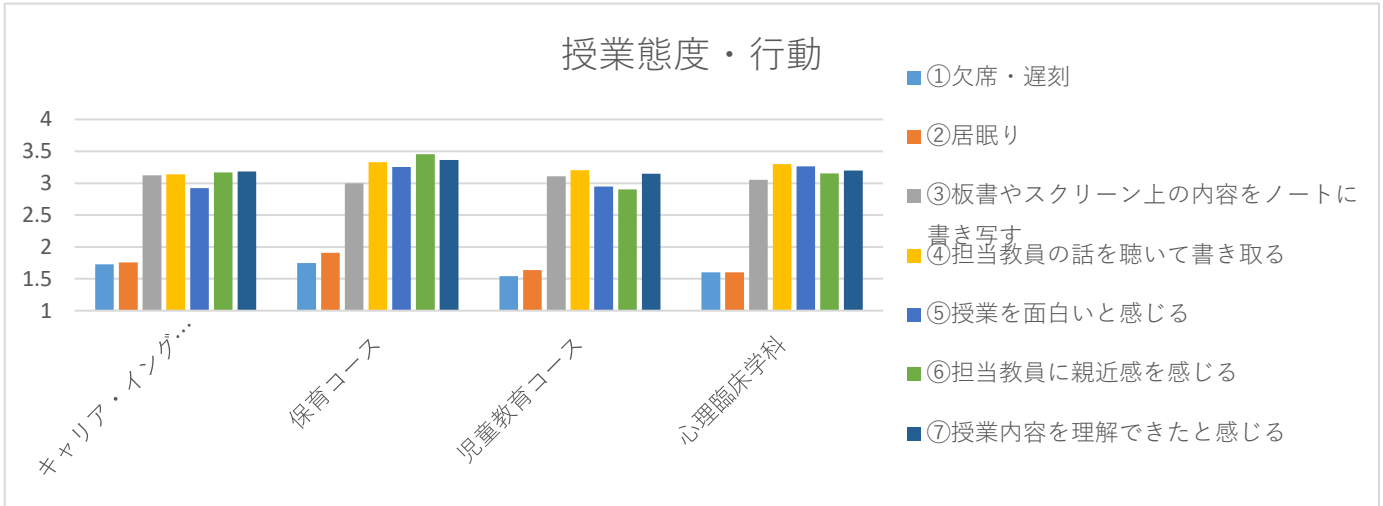
その他の面

その他の面に関しては、2021年度と同様に「雰囲気がよく親しみやすい」「学生への面倒見が良い」は継続して高い割合を維持しています。

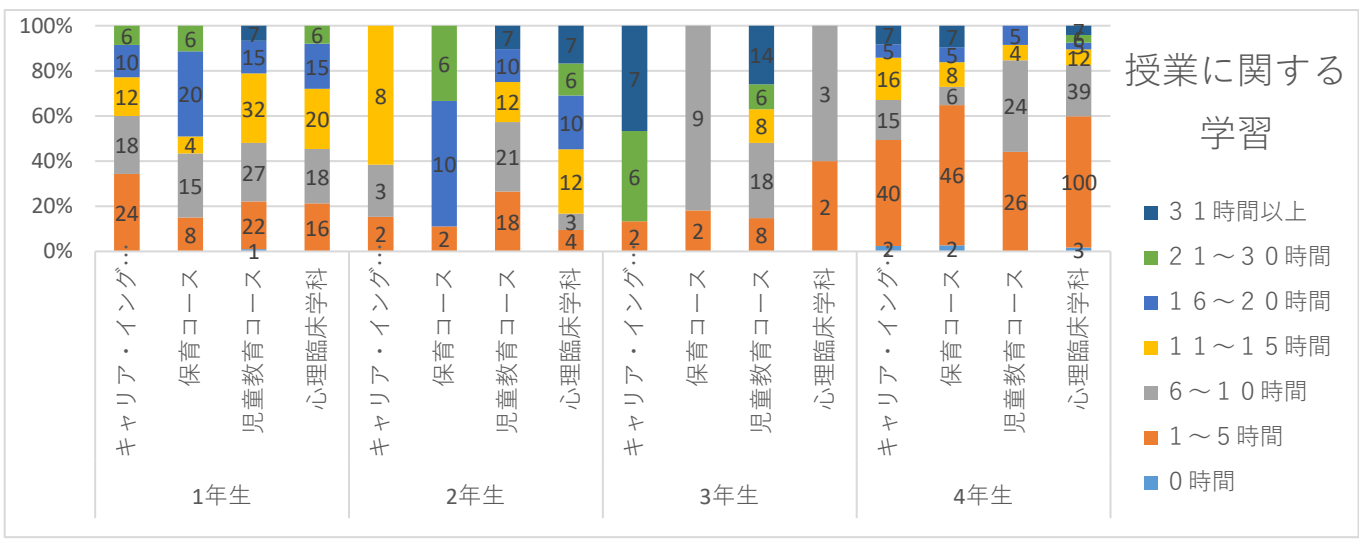
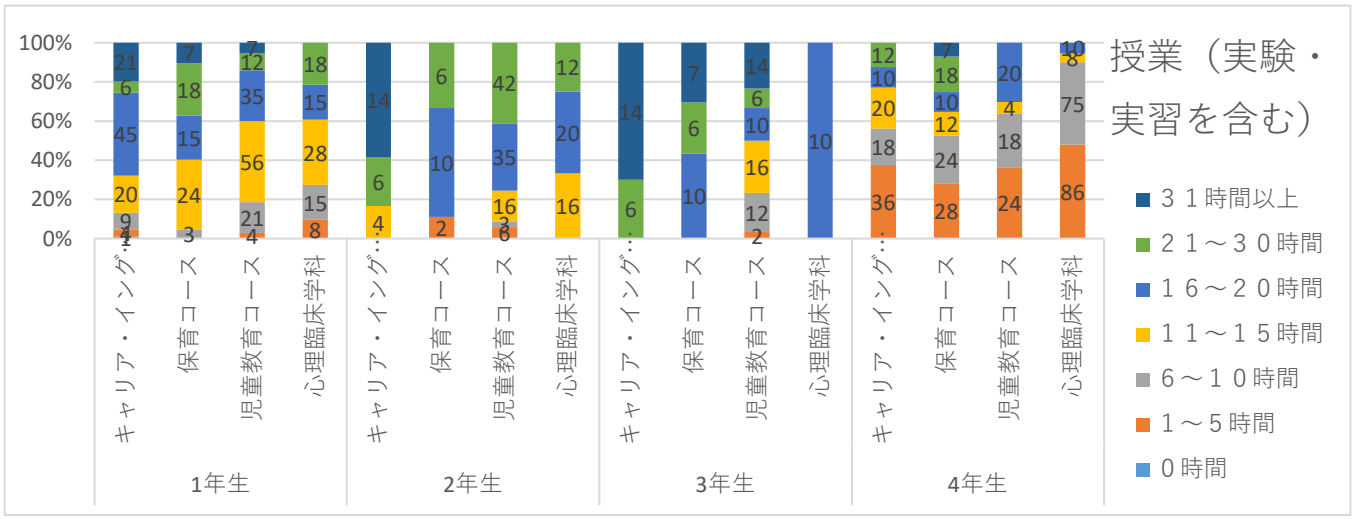


学修態度・行動

2022年度の授業態度・行動に関して「ほとんどなかった」「あまりなかった」「まああった」「かなりあった」の中からあてはまるものを一つだけ選択させて、それぞれを1,2,3,4と点数化して全学年での平均値を集計しました。項目「板書やスクリーン上の内容をノートに書き写す」「担当教員の話を書いて書き取る」「授業を面白いと感じる」「担当教員に親近感を感じる」「授業内容を理解できたと感じる」は約3～3.5ポイント付近で「まああった」程度の評価となっており2021年度と比較してそれほど変化はありません。



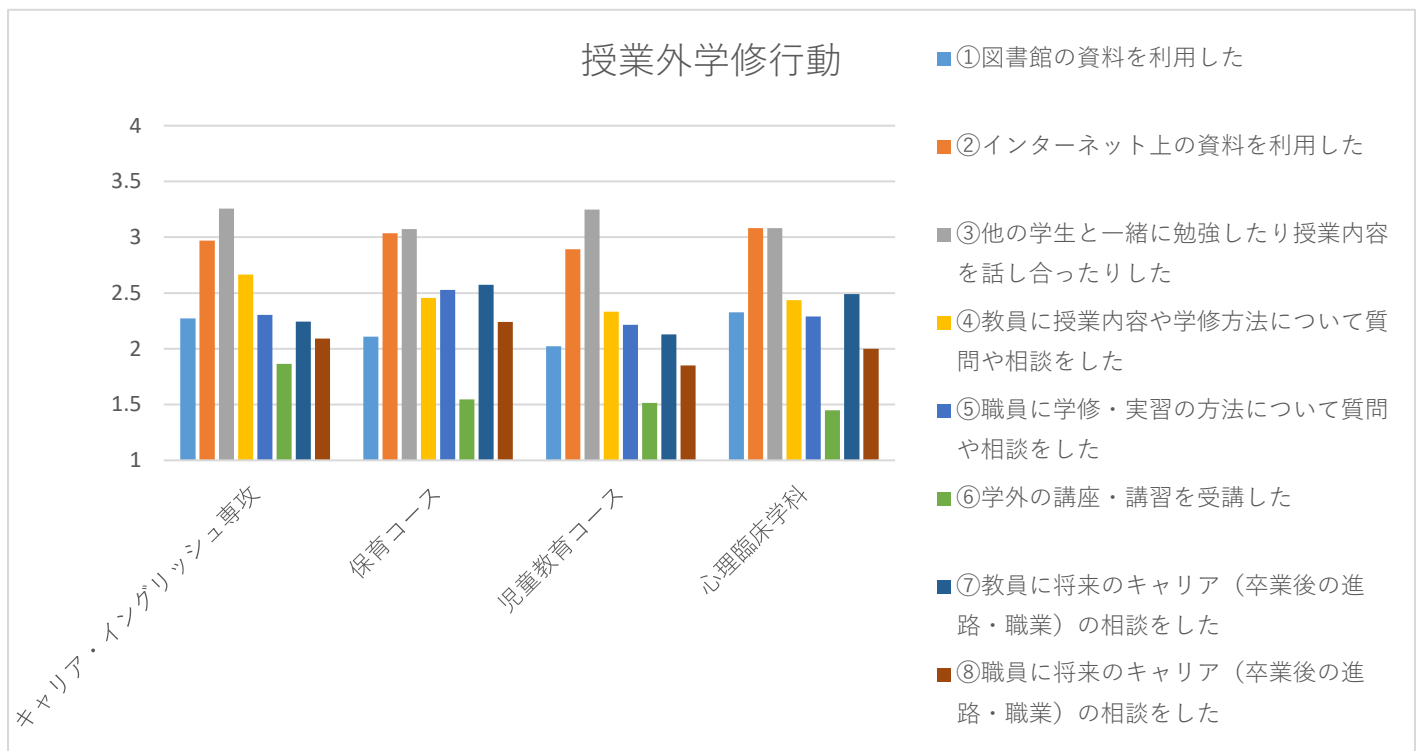
授業への出席時間と授業に関する学習にかけた一週間あたりの時間は以下のとおりです。



授業以外の学修活動

授業以外での学修活動に関して「ほとんどしなかった」「あまりしなかった」「まあまあした」「かなりした」の中からあてはまるものを一つだけ選択させて、それぞれを1,2,3,4と点数化して全学年での平均値を集計しました。

授業以外での学修行動は昨年度と大きな違いは見られず、「インターネット上の資料を利用した」と「他の学生と一緒に勉強したり授業内容を話し合ったりした」が他の項目と比べて高いようです。「学外の講座・講習を受講した」は全体的に昨年度の平均値よりも若干の上昇が見られました。

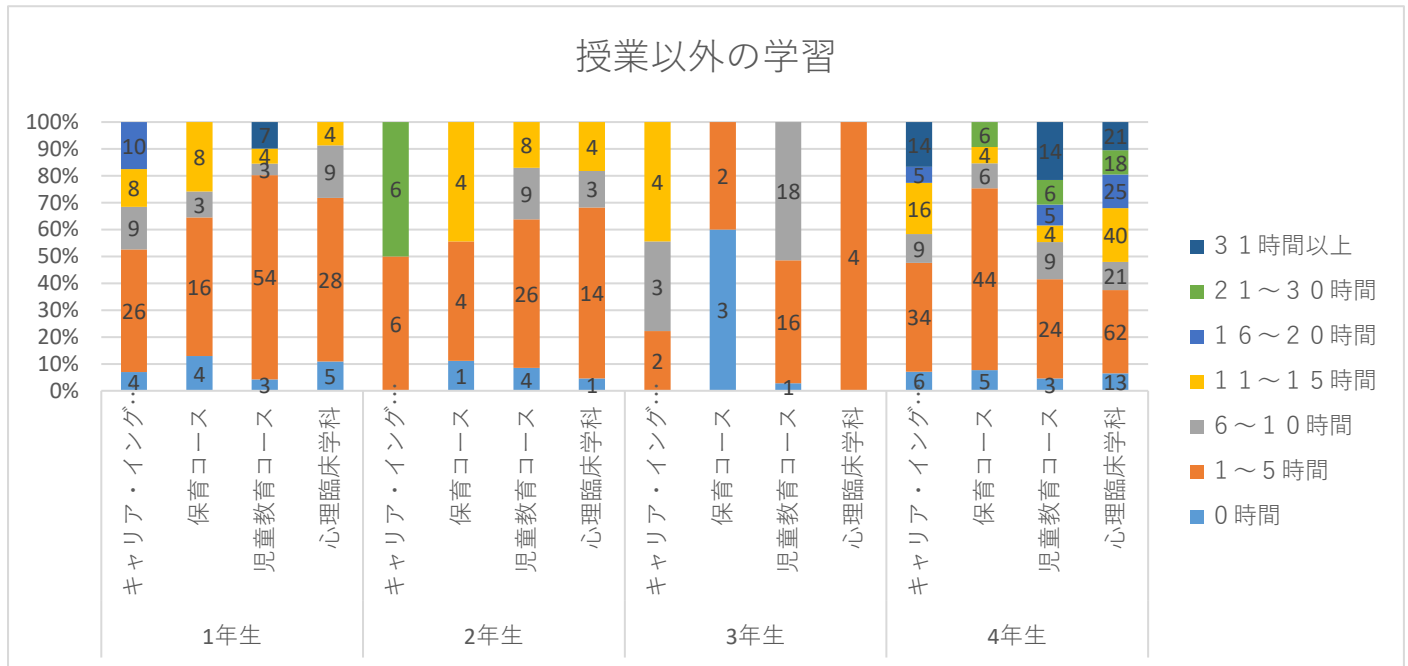


授業以外の活動時間

授業以外の活動時間は一週間あたり平均何時間か、「0時間」「1-5時間」「6-10時間」「11-15時間」「16-20時間」「21-30時間」「31時間以上」から選択する形式で回答を集計しました。

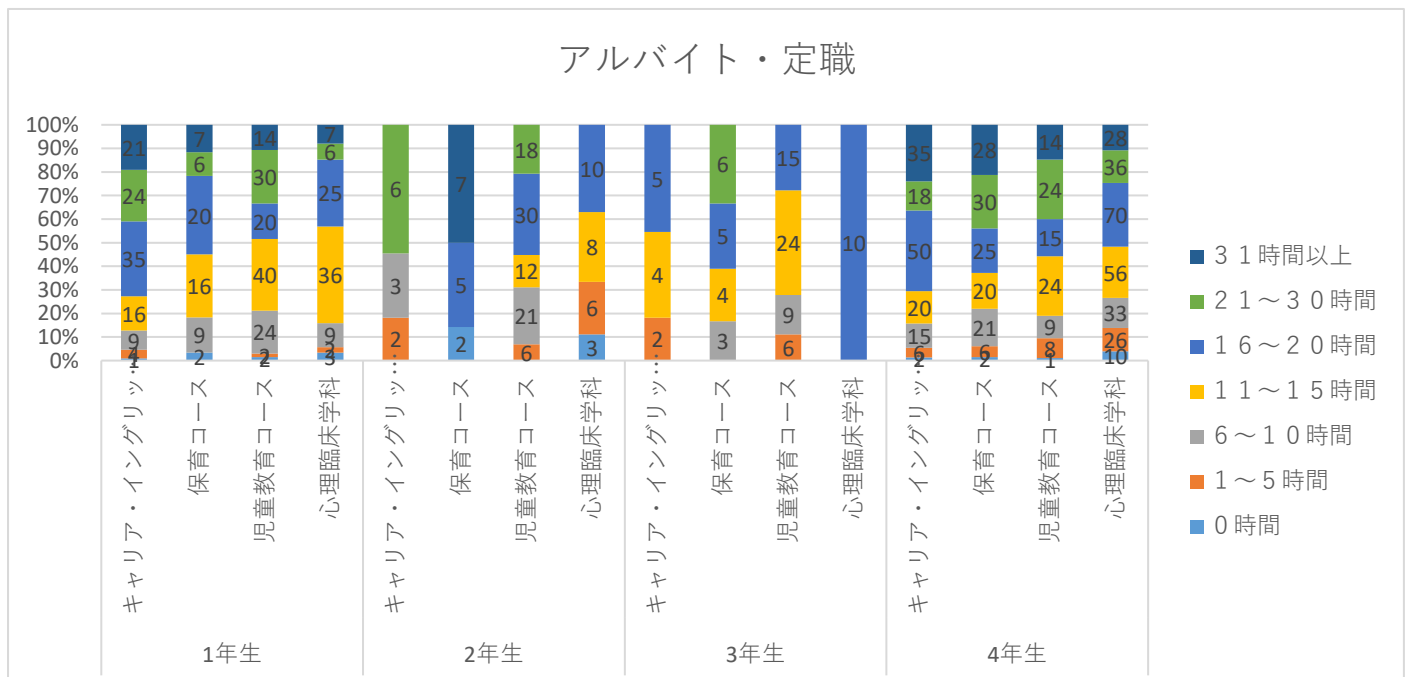
授業以外の学習時間

授業以外の学習時間は以下の図のようになりました。「1-5時間」が一番多い回答でした。1～3年時は6時間以上の学習時間をとっている割合はキャリア・イングリッシュ専攻が多く、4年生ではのキャリア・イングリッシュ専攻、児童教育コース、心理臨床学科は6時間以上の授業以外の学習時間をとっている割合が50%以上となっていました。



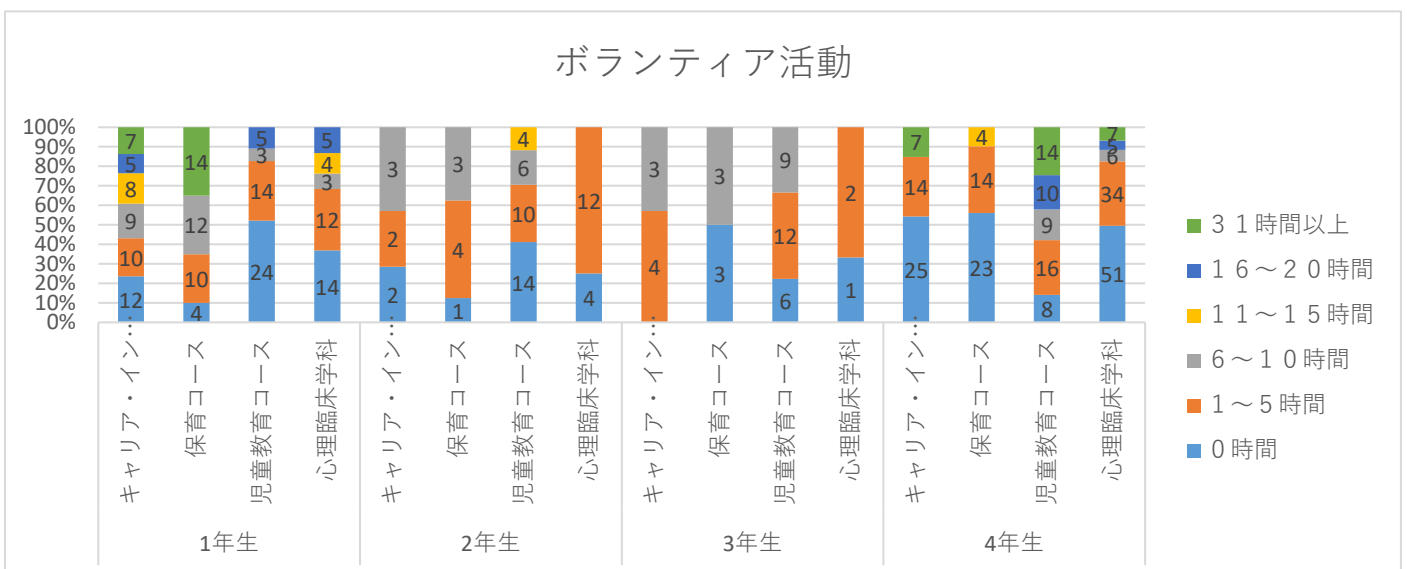
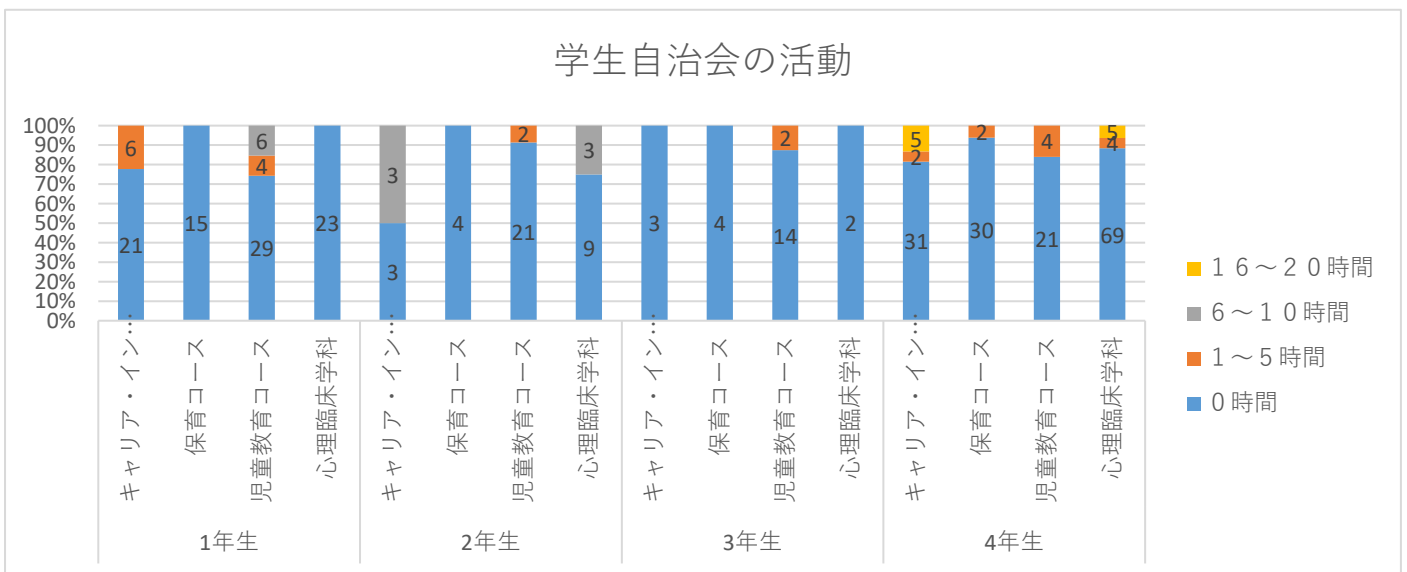
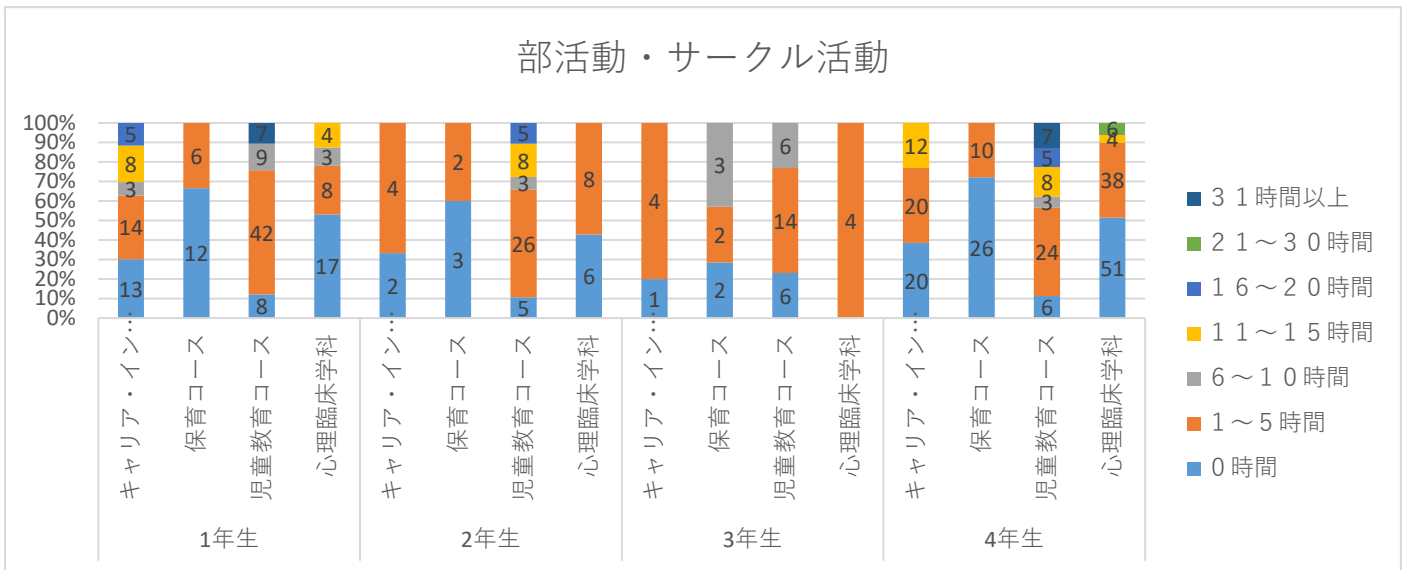
アルバイト・定職にかけている時間

アルバイト・定職にかけている時間は以下のように分布しています。アルバイトが0時間の学生の比率は少なく、多くの学生が何かしらのアルバイトをしているようです。



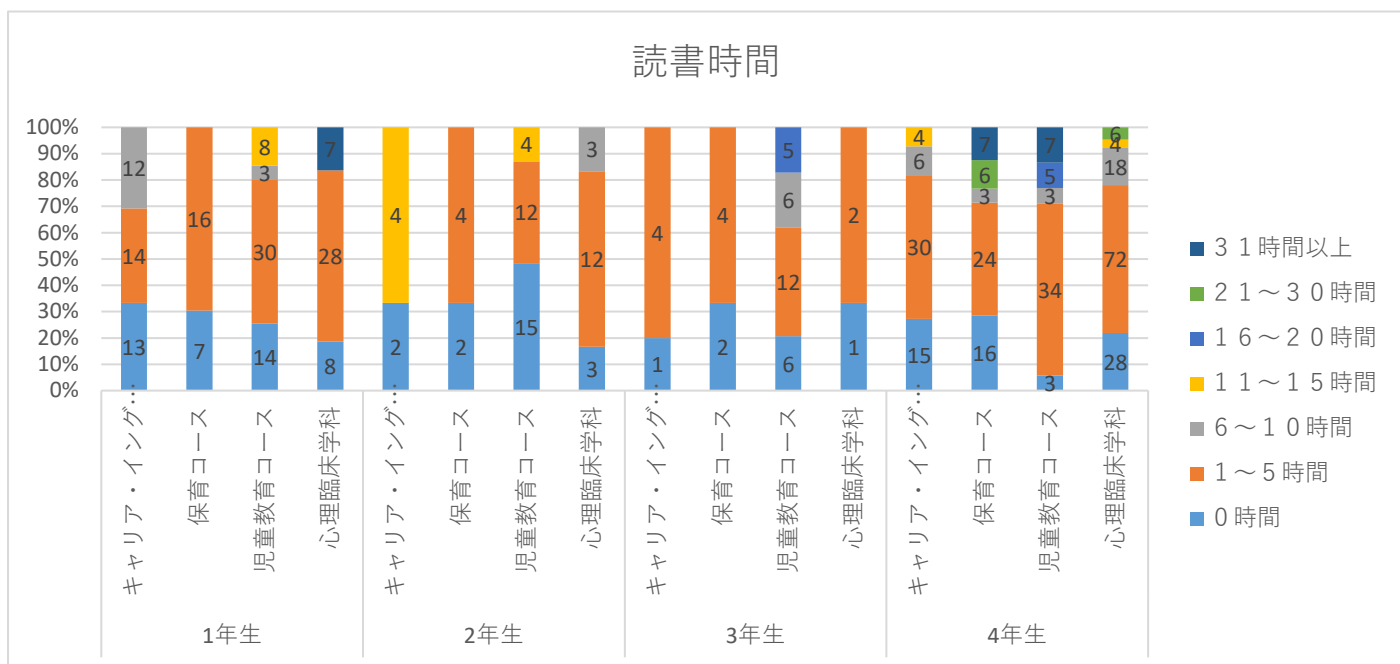
部活動・サークル活動，学生自治会の活動，ボランティア活動にかけている時間

部活・サークル参加状況，自治会参加状況，ボランティア参加状況は以下の図のとおりです。部活動にかかる時間は2021年度と比べ増えてきています。学生自治会の活動では4年生の一部の学生が週に16～20時間の時間をかけているようです。



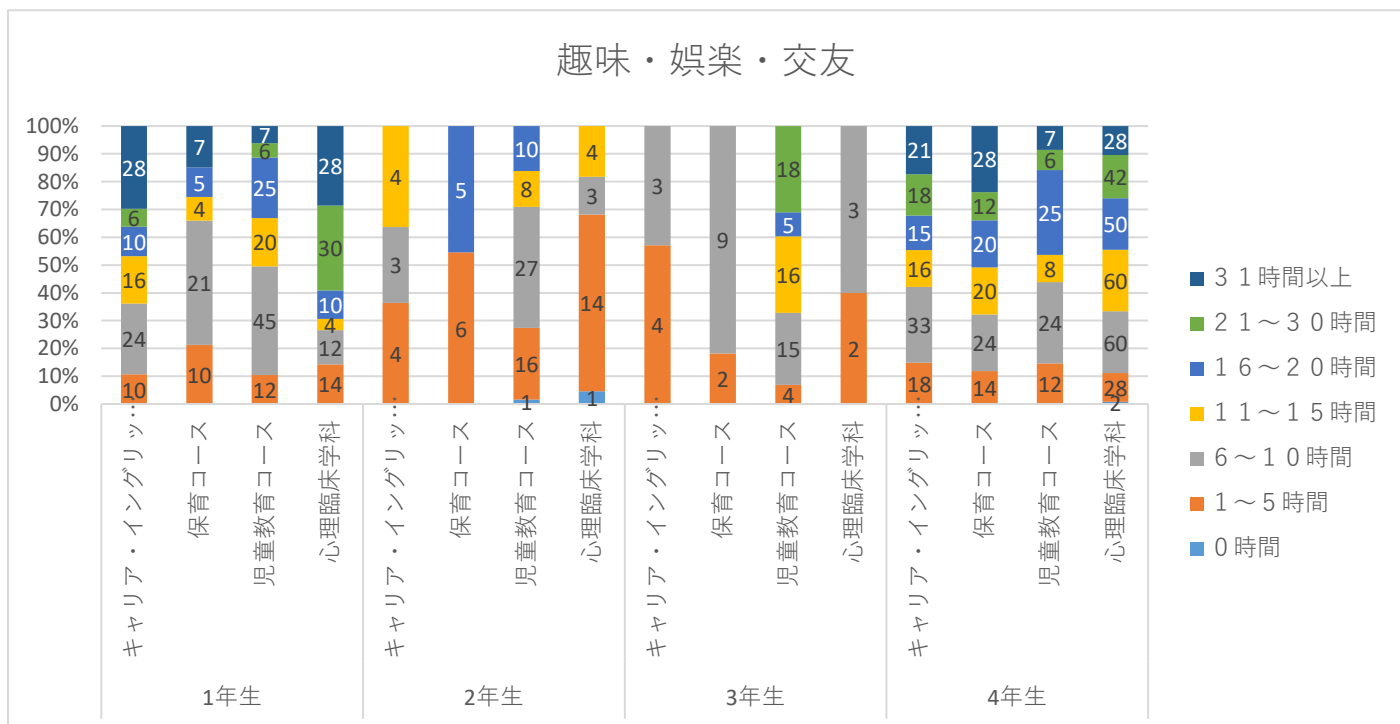
読書時間

読書をする学生の割合は各学年、各学科専攻コースでバラつきがあります。児童教育コースの4年生は読書時間が0時間の学生はかなり少ない割合になるようです。



趣味・娯楽・交友にかける時間

趣味・娯楽・交友にかける時間は以下になりました。

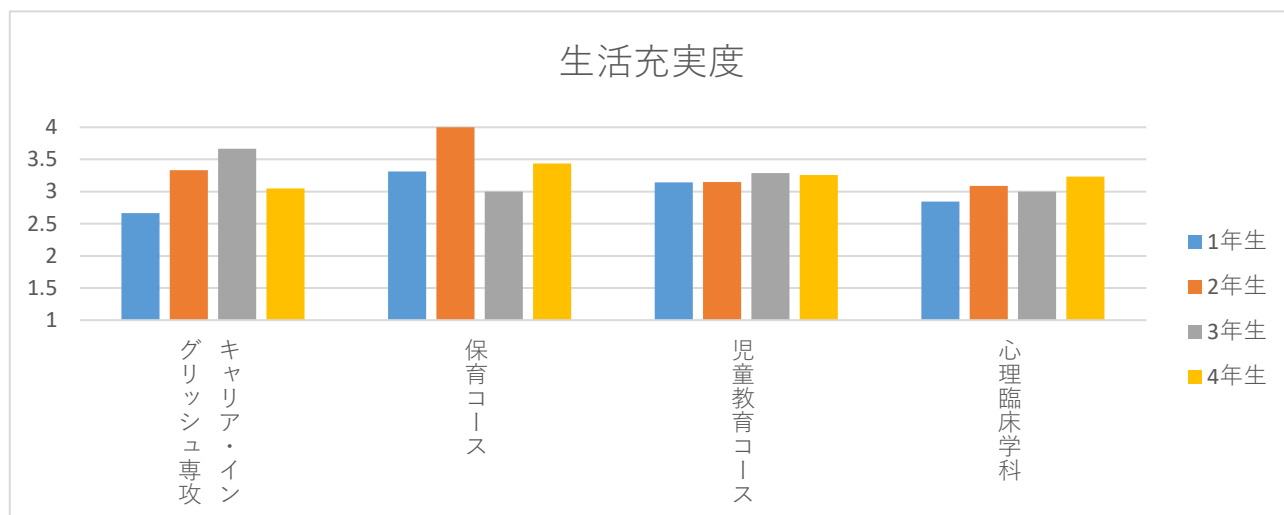


学生生活充実感および教育内容・施設・サービスに対する満足感

学生生活充実度

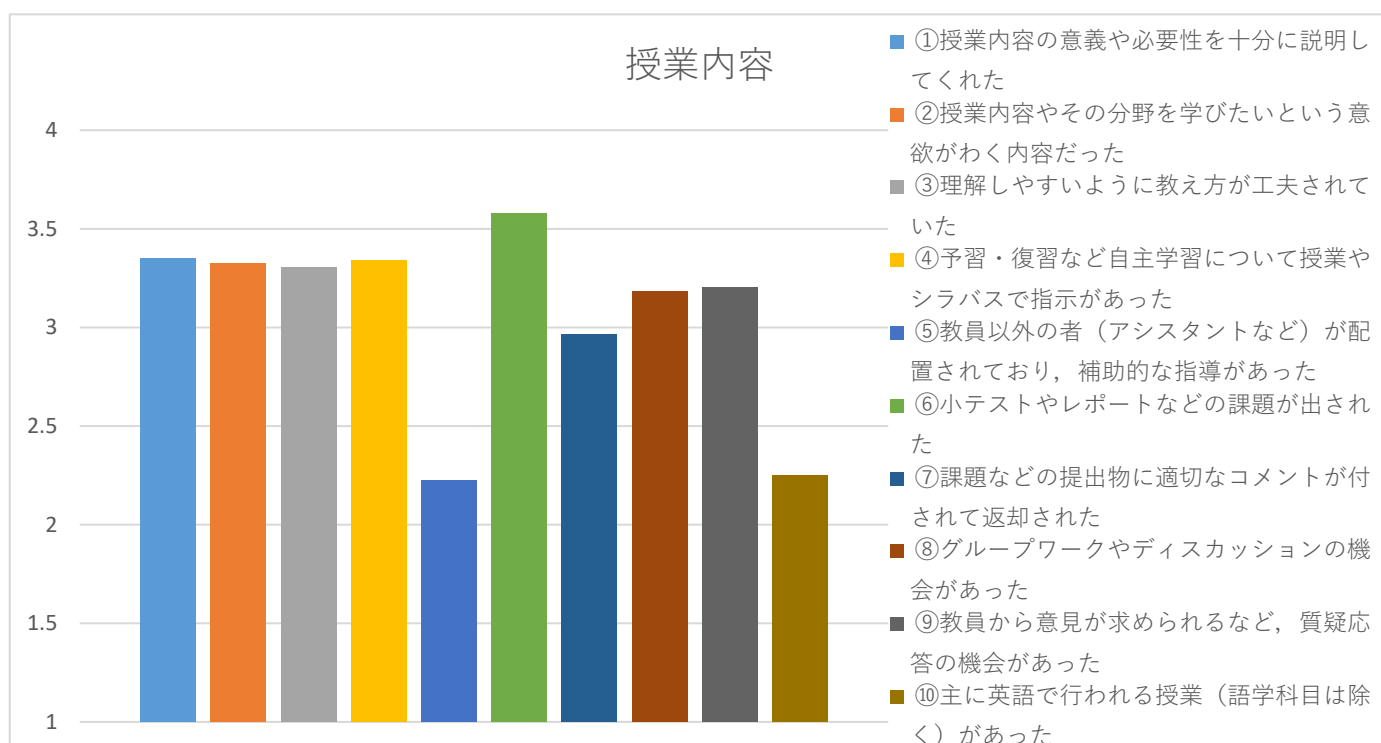
本学での学生生活にどの程度充実感があるかを、「1. まったく充実していなかった」「2. あまり充実していなかった」「3. まあまあ充実していた」「4. 充実していた」の4件法で尋ねました。各学科・専攻・コースの学年ごとの生活充実度の平均値は以下の通りです。

すべての学年および学科・専攻・コースで2.5ポイントは越えており、またほとんどの学年・学科・専攻・コースで「まあまあ充実している」に相当する3ポイント程度を上回っており、本学学生はおおむね充実した学生生活を送っていると言えます。



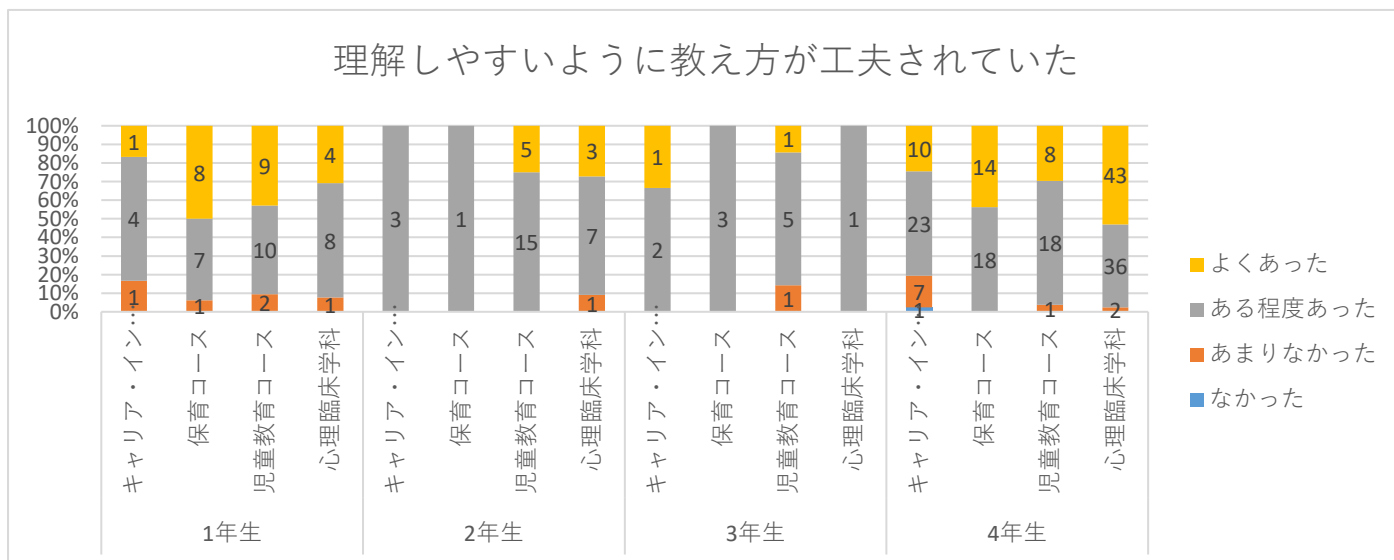
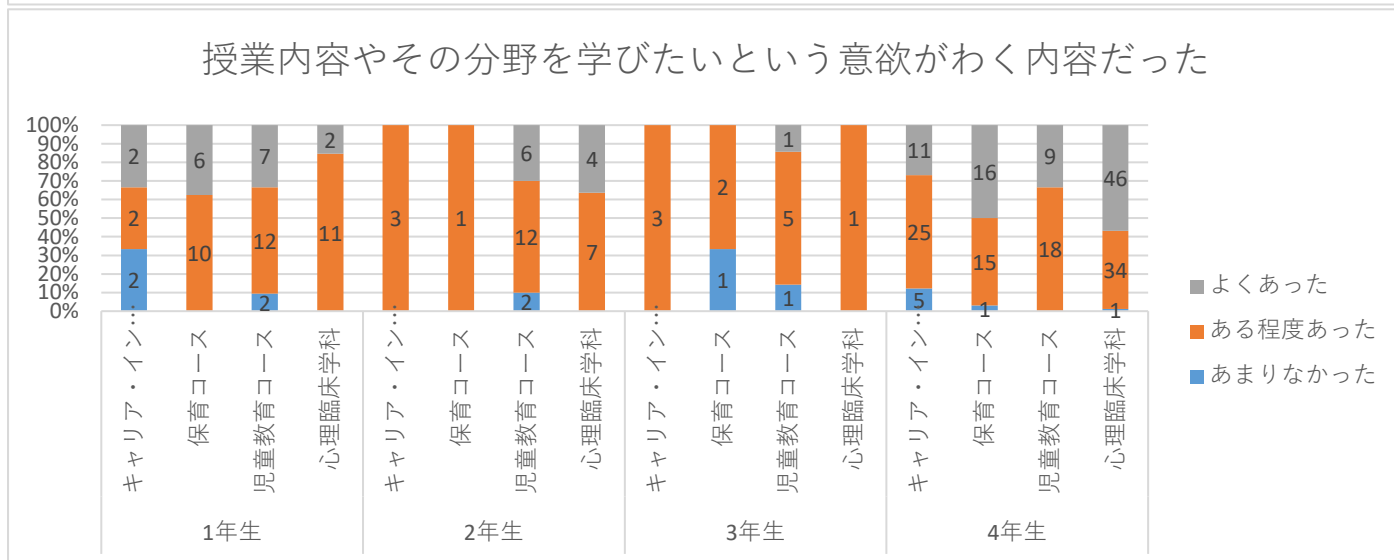
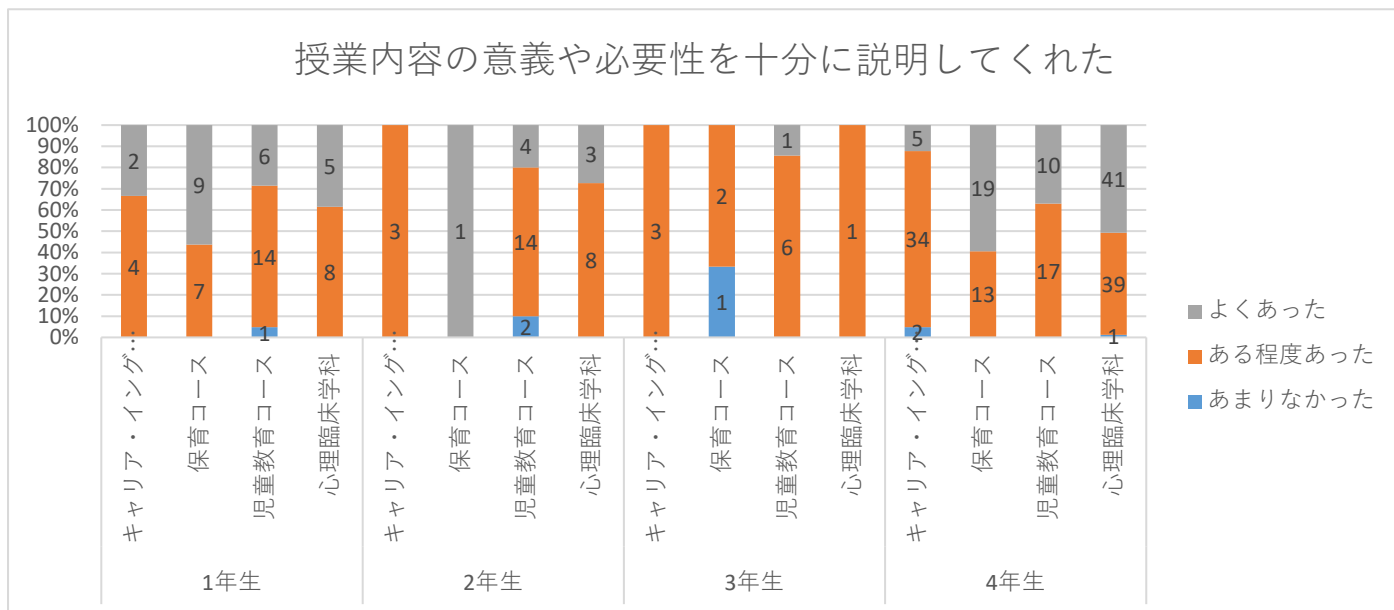
授業内容

本学での授業において各項目をどれくらいの頻度で経験したのかを「1. なかった」「2. あまりなかった」「3. ある程度あった」「4. よくあった」の4件法で尋ねました。各項目の回答者数に対する平均値を以下に図で示します。どの項目に関しても2021年度からの大きな変化はありませんでした。

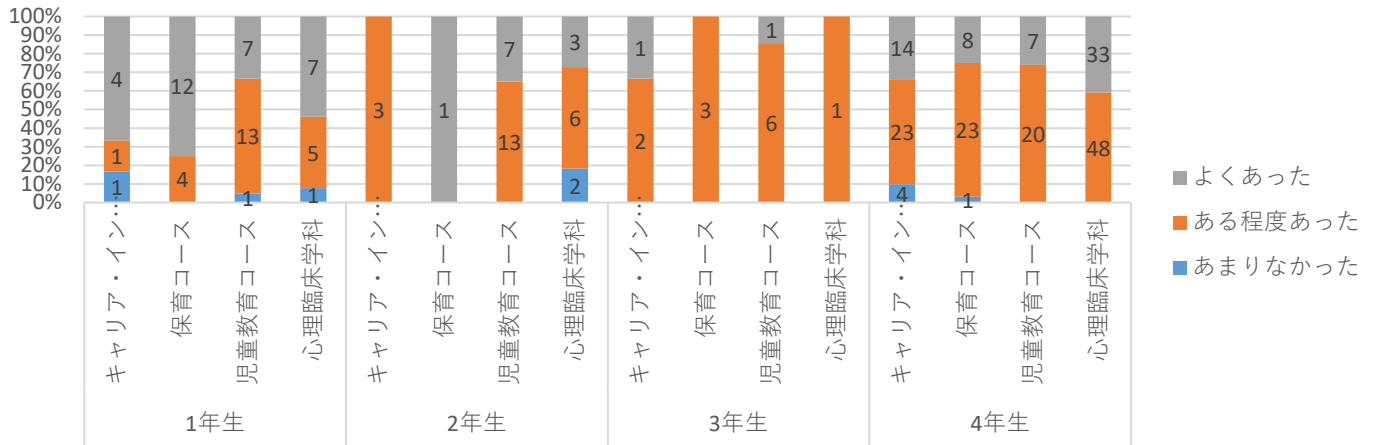


各学年・学科・専攻・コースごとの回答（授業内容）

各学年・学科・専攻・コースごとの回答の分布を以下に示します。



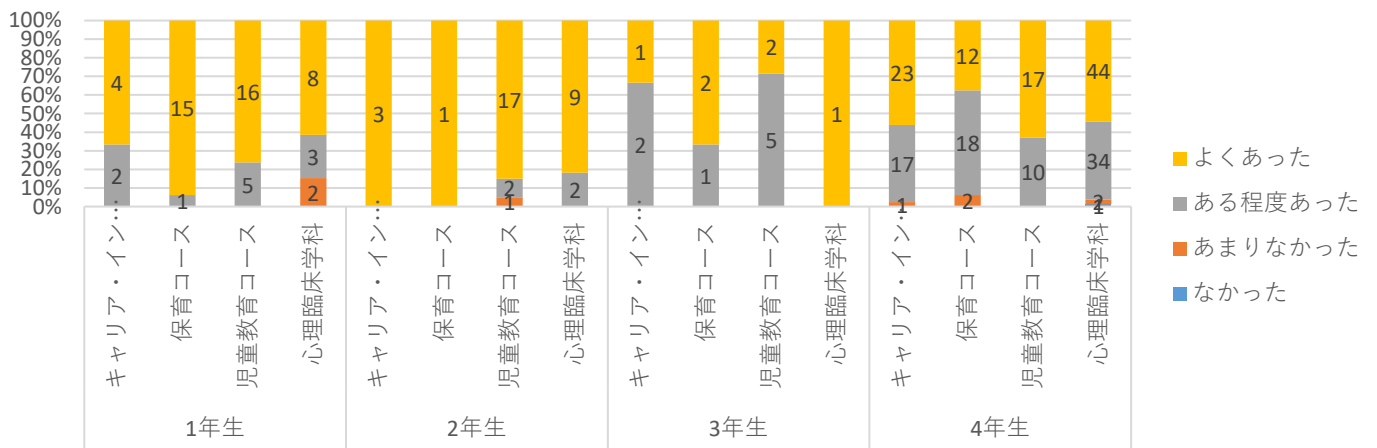
予習・復習など自主学習について授業やシラバスで指示があった



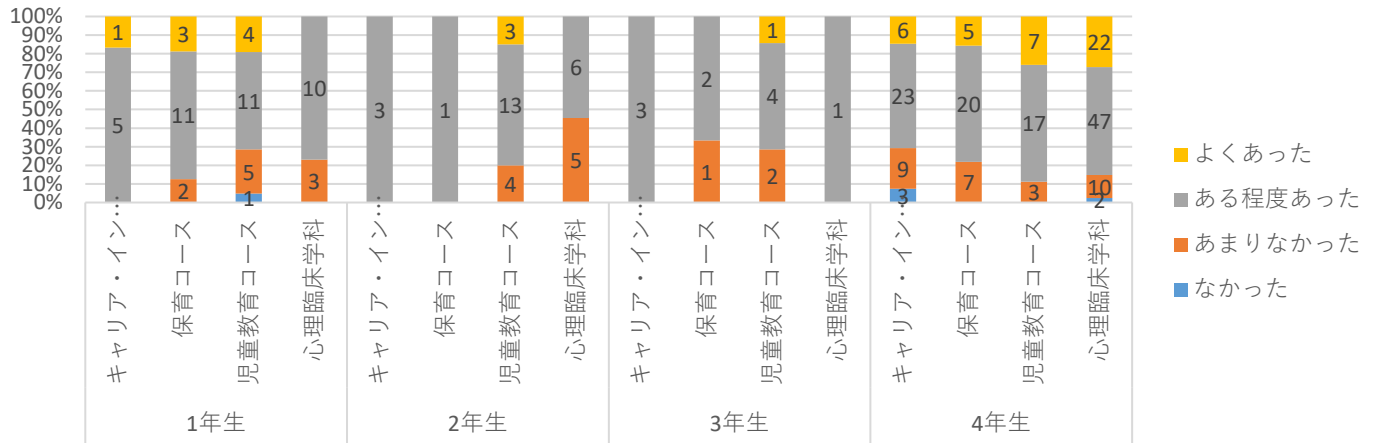
教員以外の者（アシスタントなど）が配置されており、補助的な指導があった



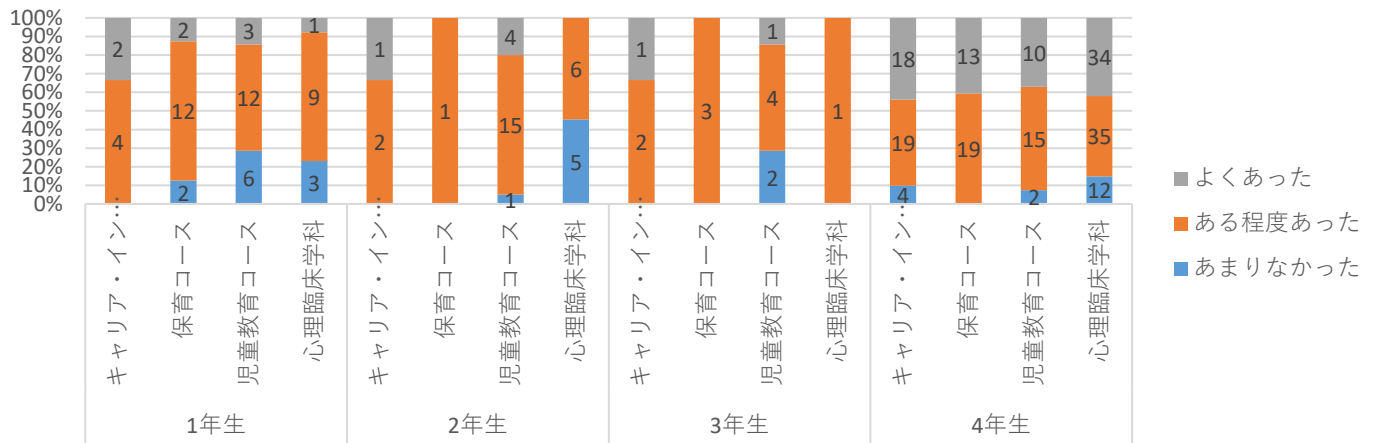
小テストやレポートなどの課題が出された



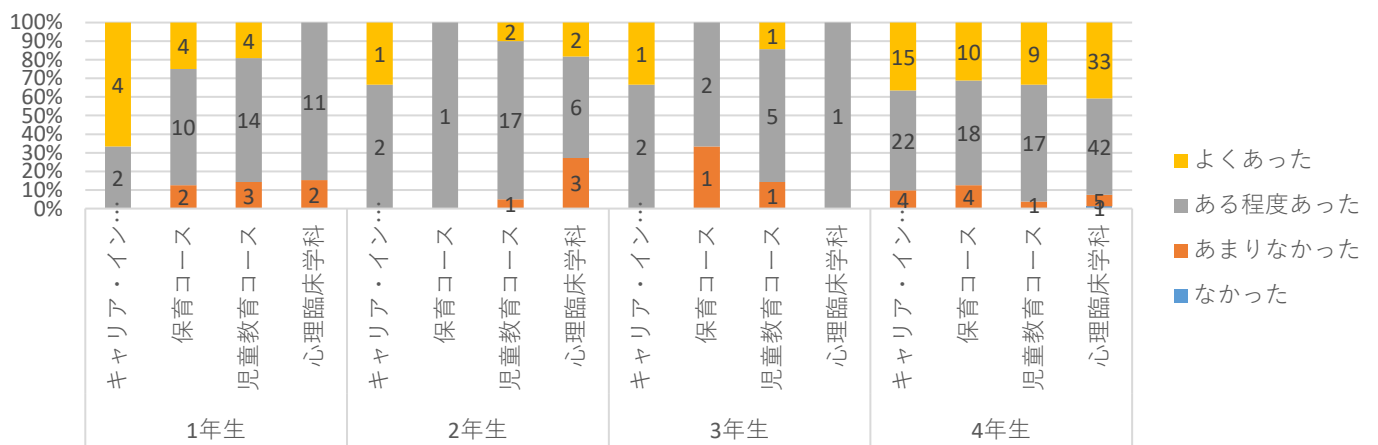
課題などの提出物に適切なコメントが付されて返却された



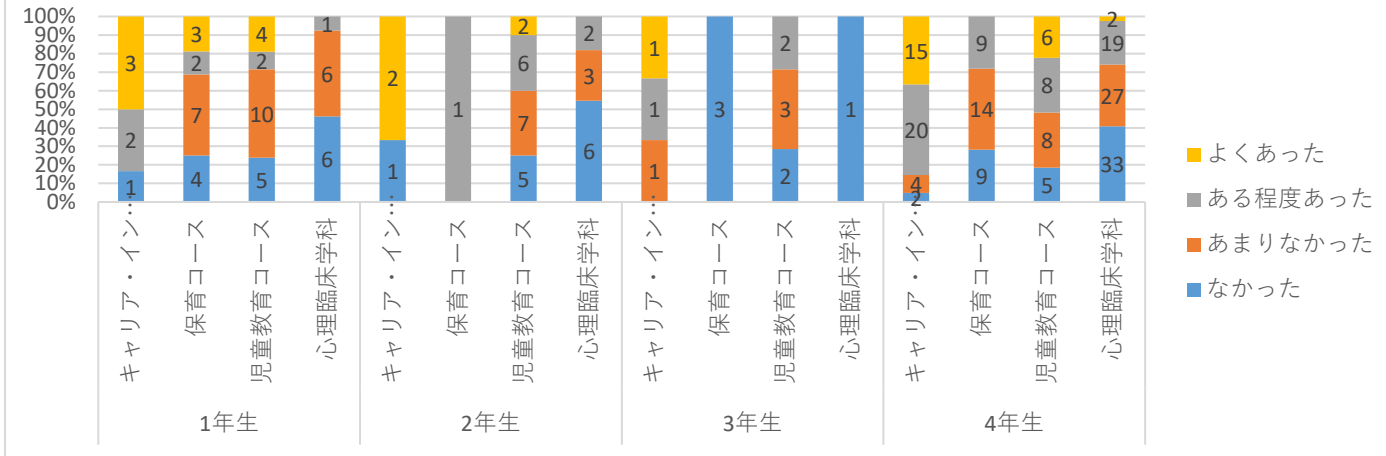
グループワークやディスカッションの機会があった



教員から意見が求められるなど、質疑応答の機会があった



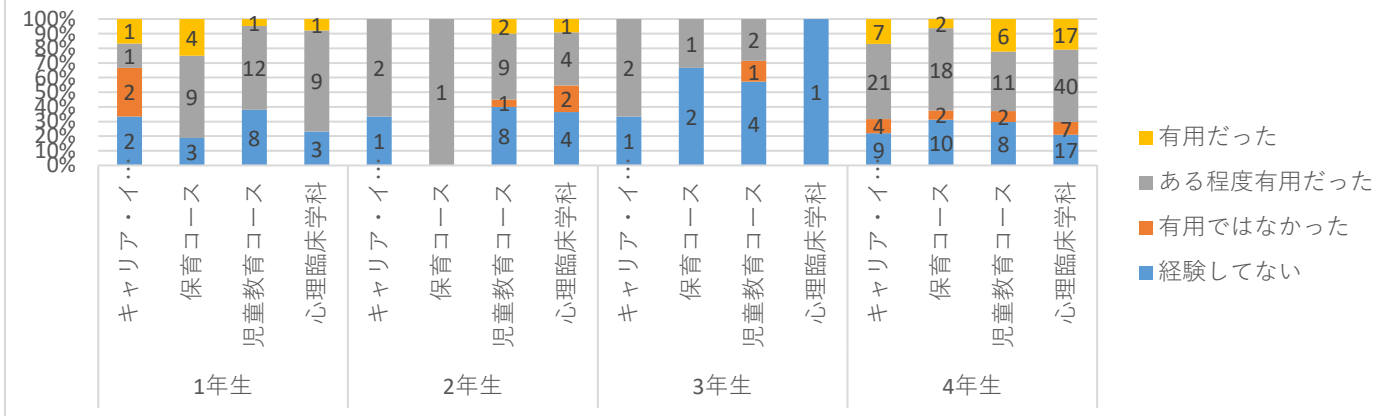
主に英語で行われる授業（語学科目は除く）があった



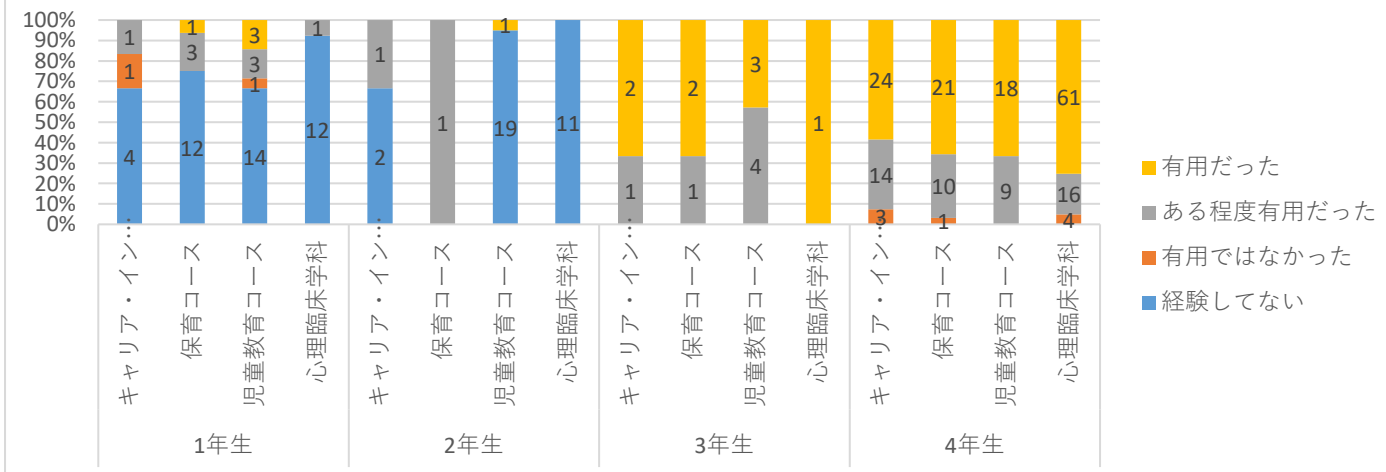
学習経験の有用性

本学の教育の機会に関して、その経験の有無と有用性に関して「経験していない」「有用ではなかった」「ある程度有用だった」「有用だった」の4つの選択肢から選択してもらい、集計しました。質問項目ごとの学年・学科・専攻・コースごとの回答の分布を以下にまとめます。

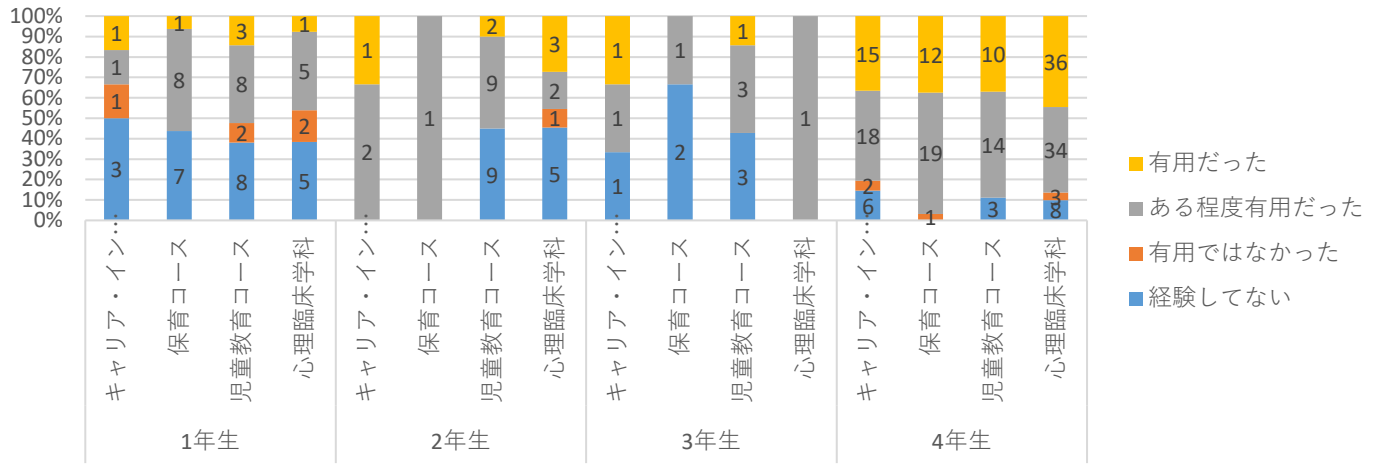
大学での勉強の方法を学ぶ科目



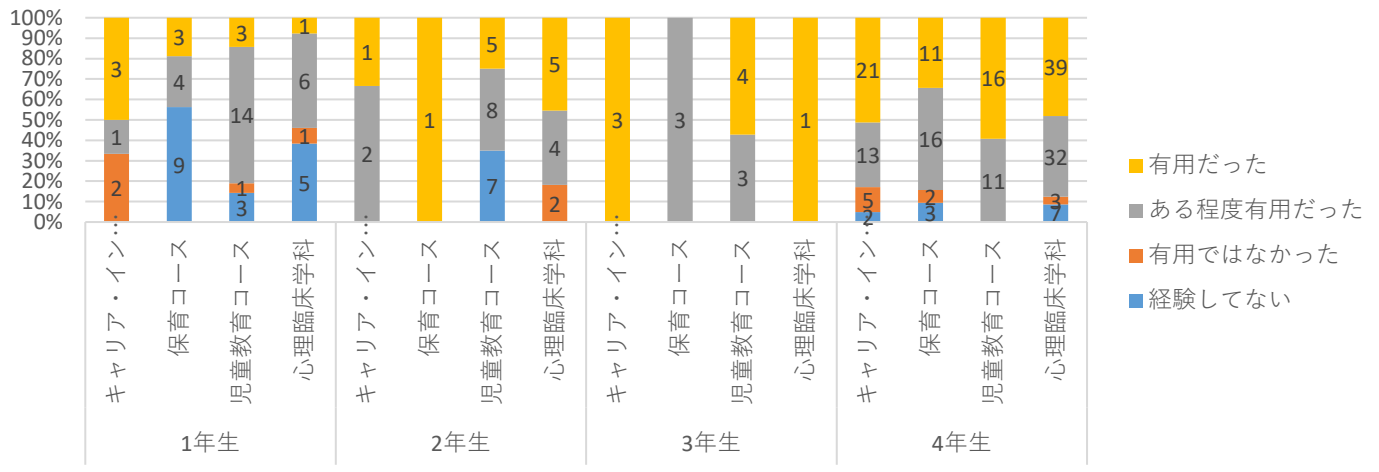
研究室やゼミでの少人数教育



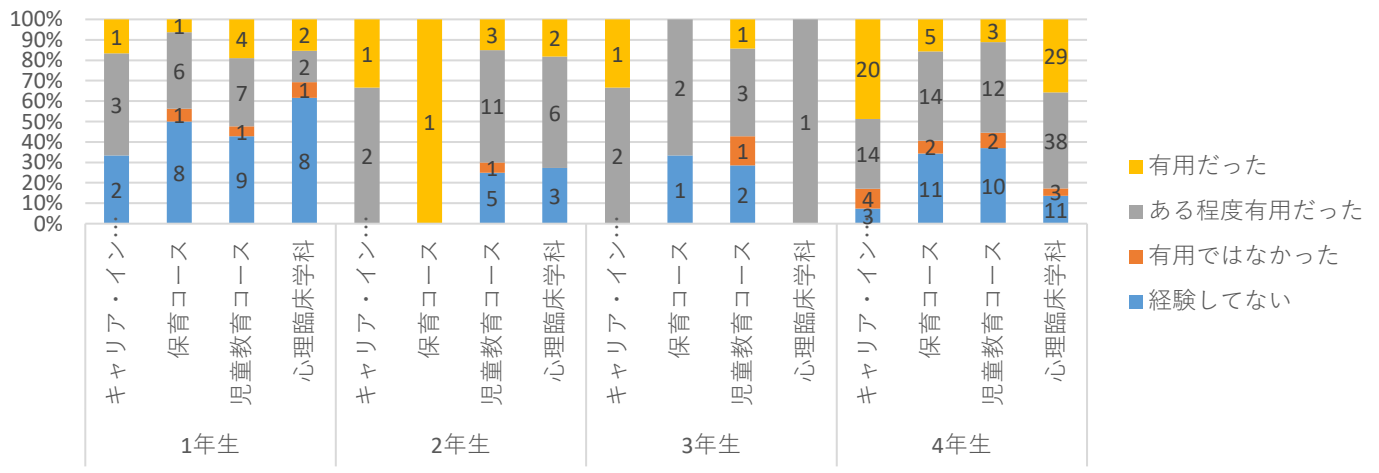
(授業以外で) 教員に質問や勉強の仕方を相談する機会



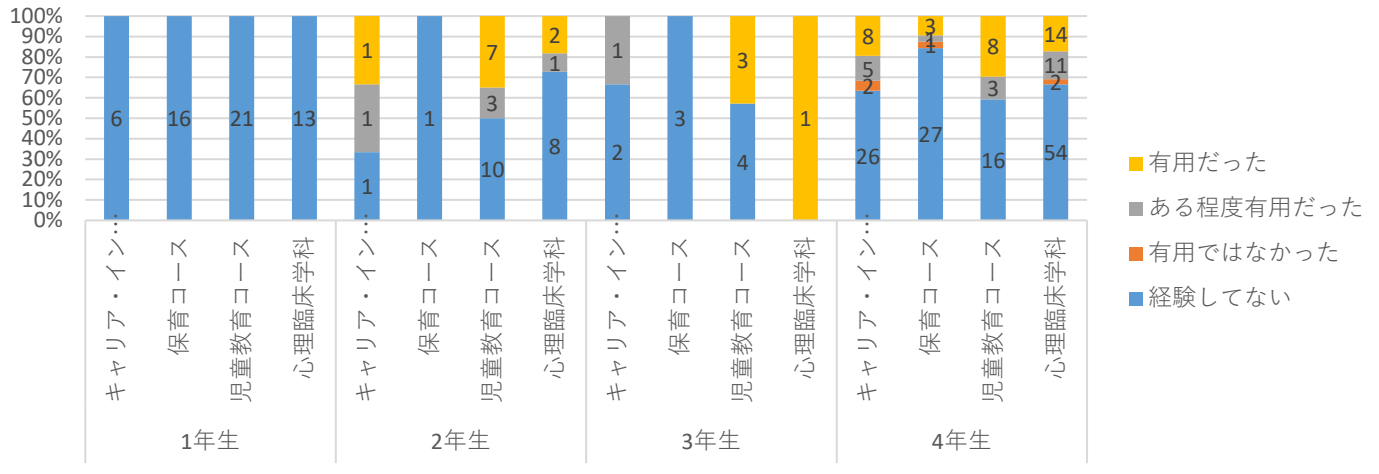
(授業時間以外で) 他の学生と一緒に学習する機会



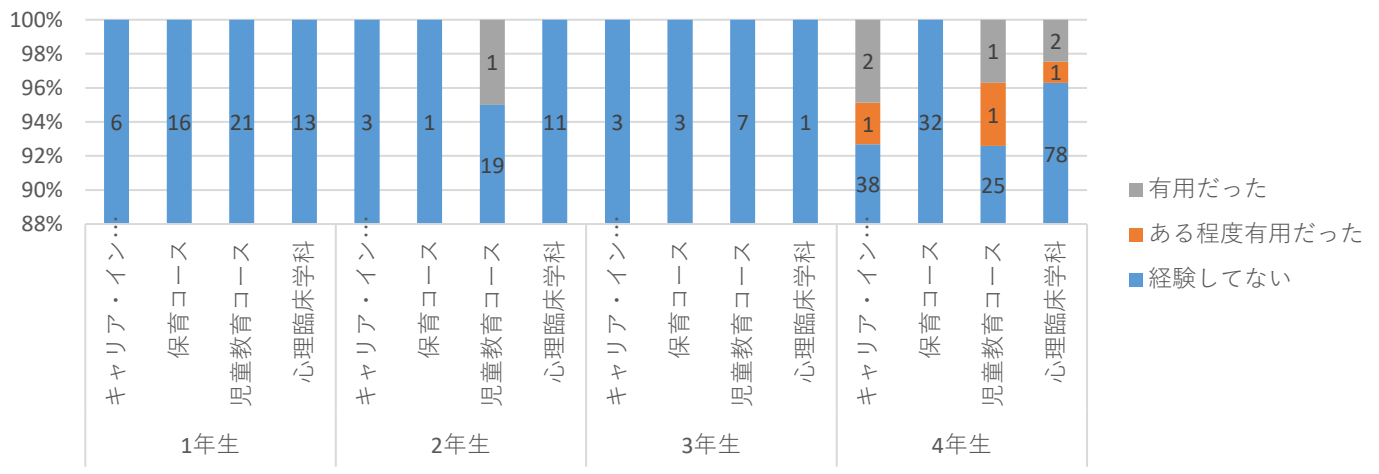
キャリアに関する科目, キャリアカウンセリング



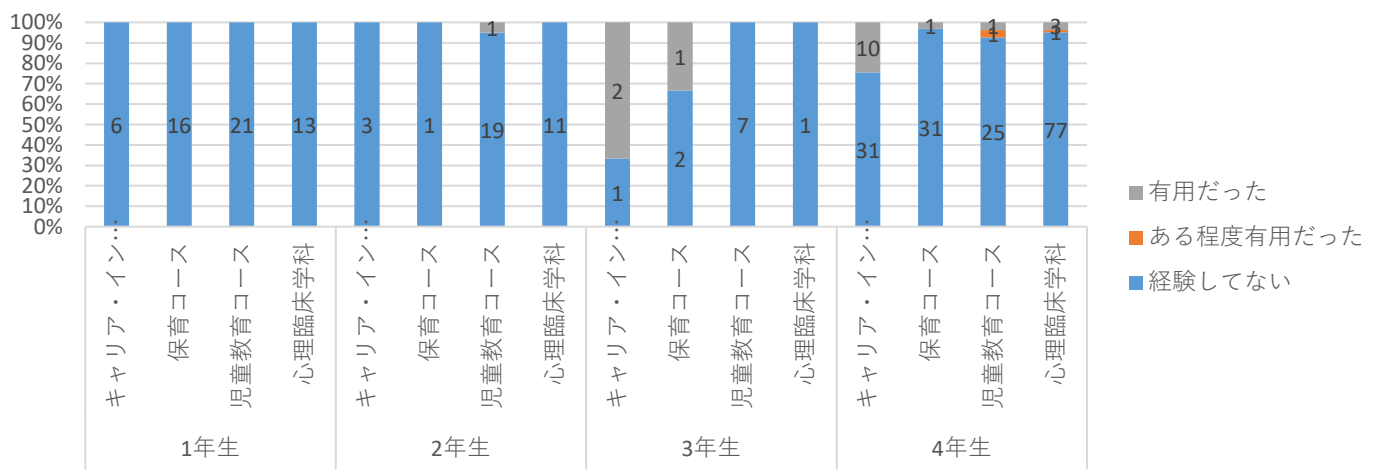
インターンシップ（5日以上のもの）



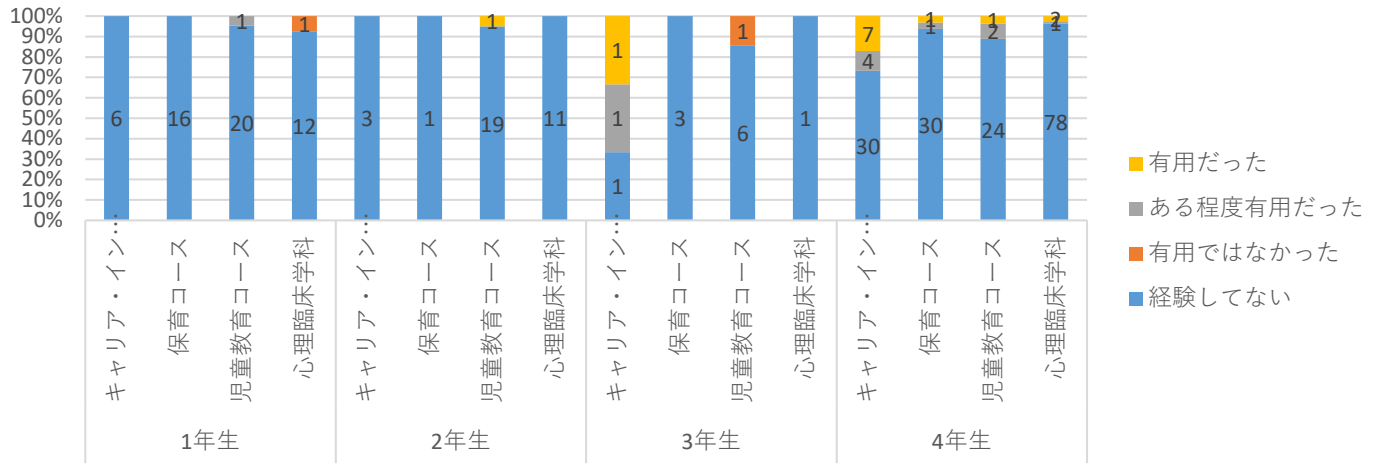
海外留学（3ヶ月以上）



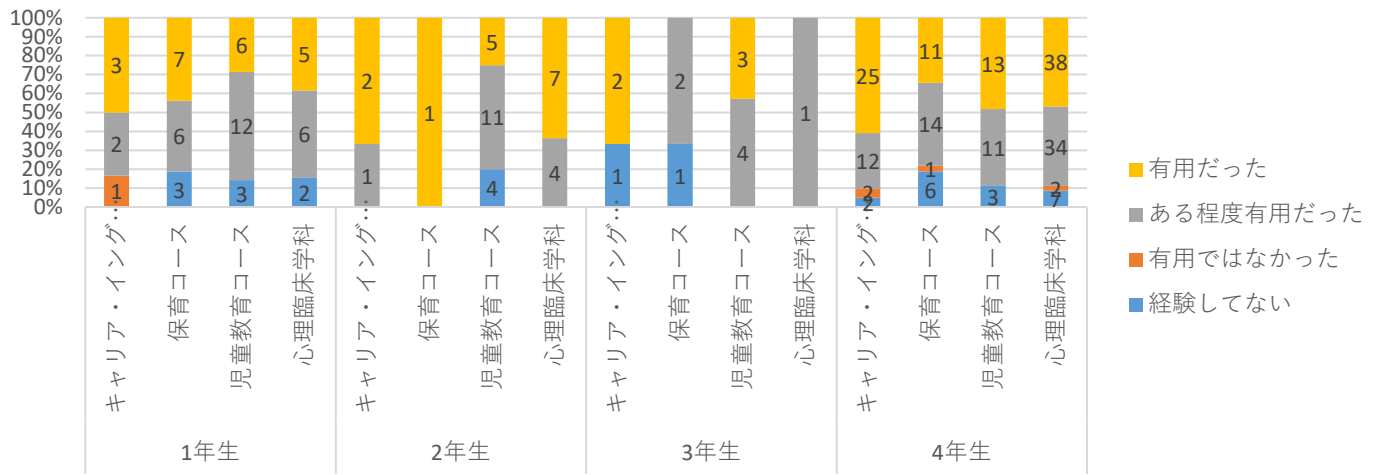
海外留学・海外研修（3か月未満）



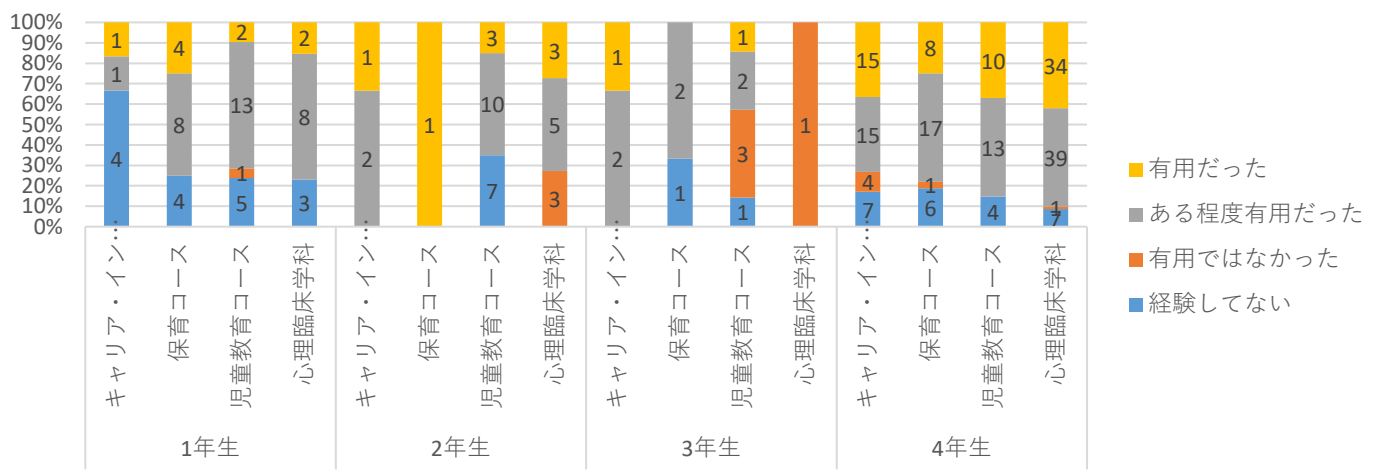
(学内で) 自分とは異なる文化圏の学生との交流



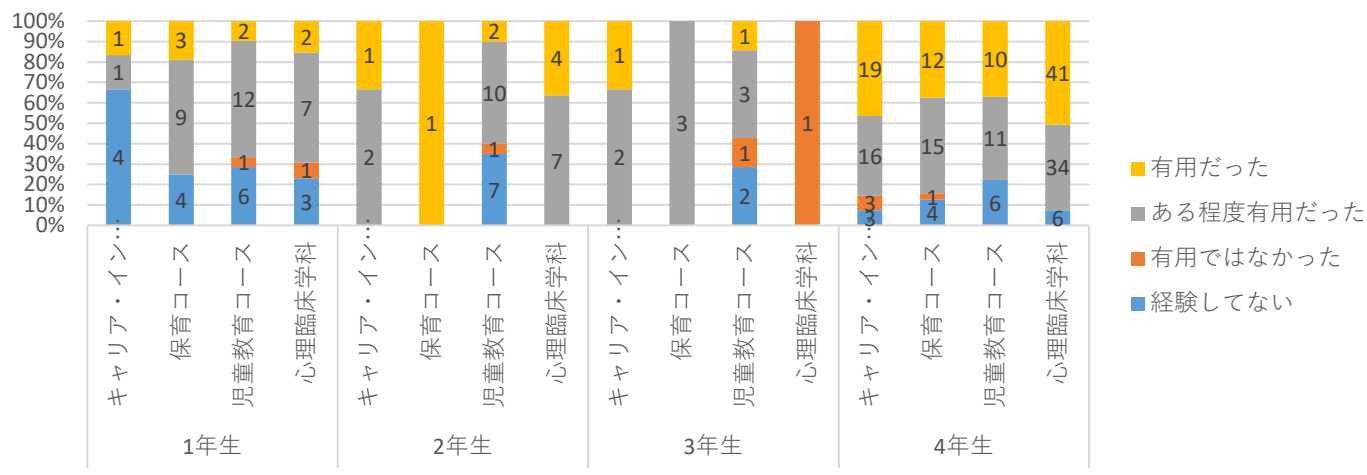
図書館やアクティブ・ラーニングスペースなど大学施設を活用した学習



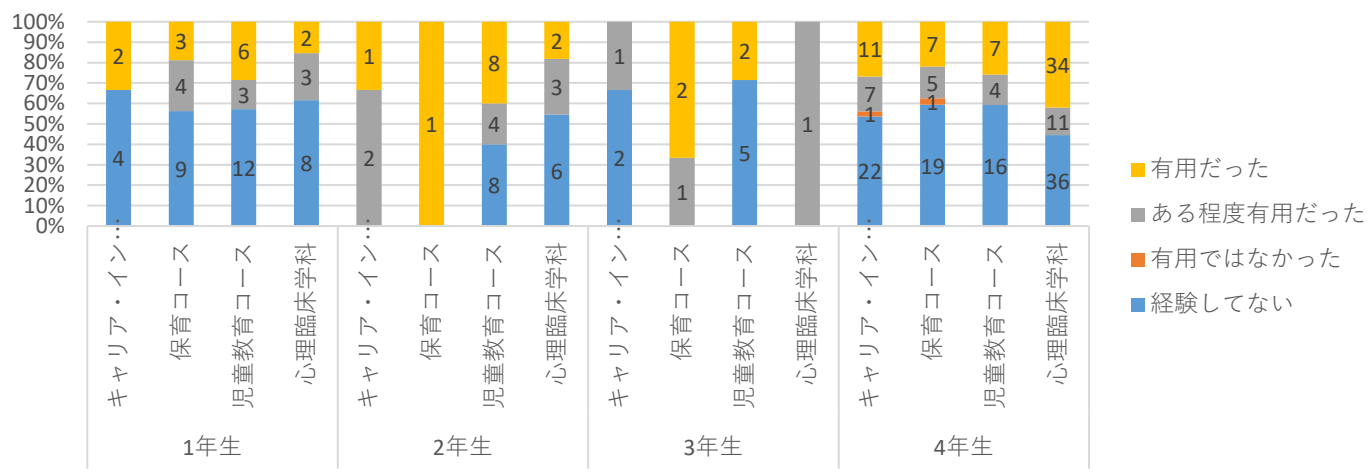
科目履修や資格取得に関する教育相談やサポート



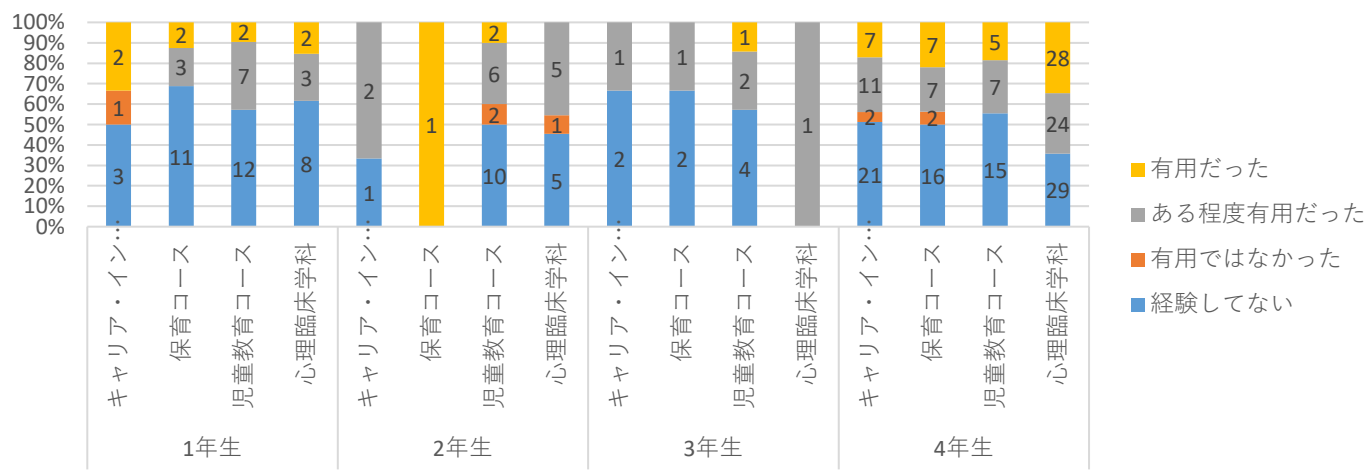
学生生活や就職に関する相談やサポート



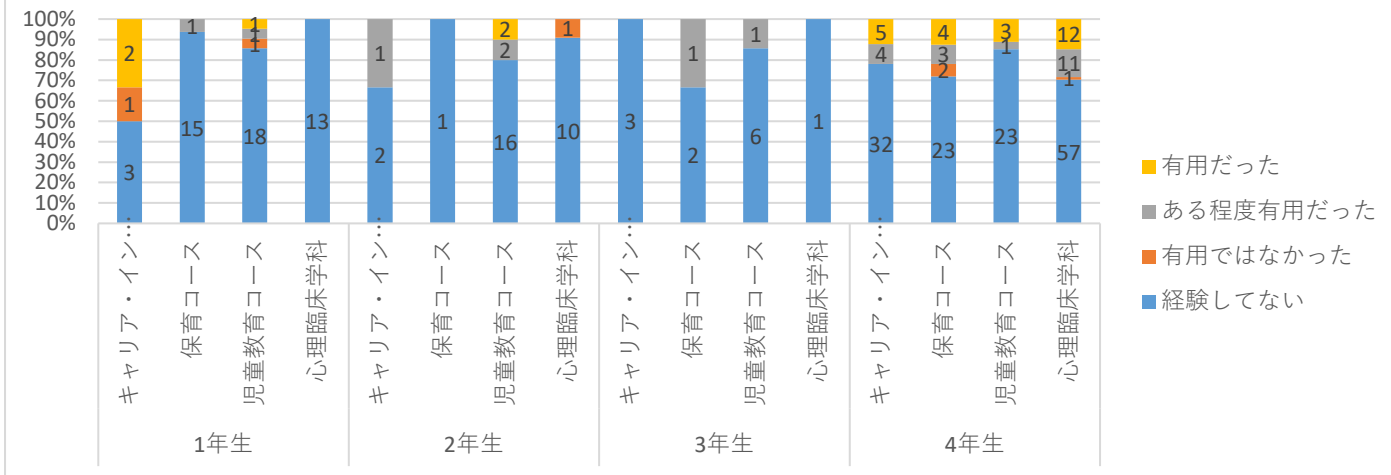
奨学金などの生活支援制度



学生相談などの心身の健康に関わる相談やサポート



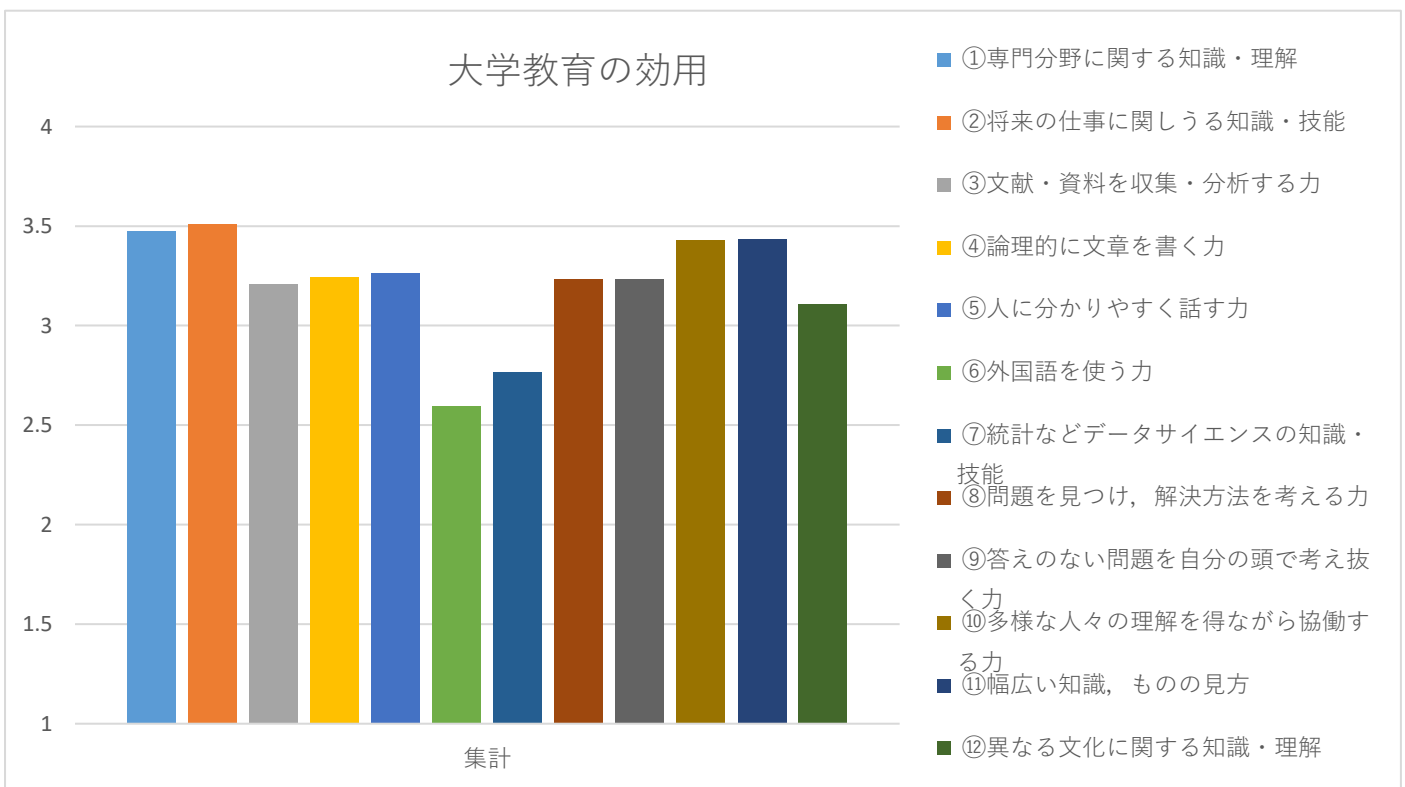
事件・事故・被災・ハラスメントに関する相談やサポート



大学教育の効用

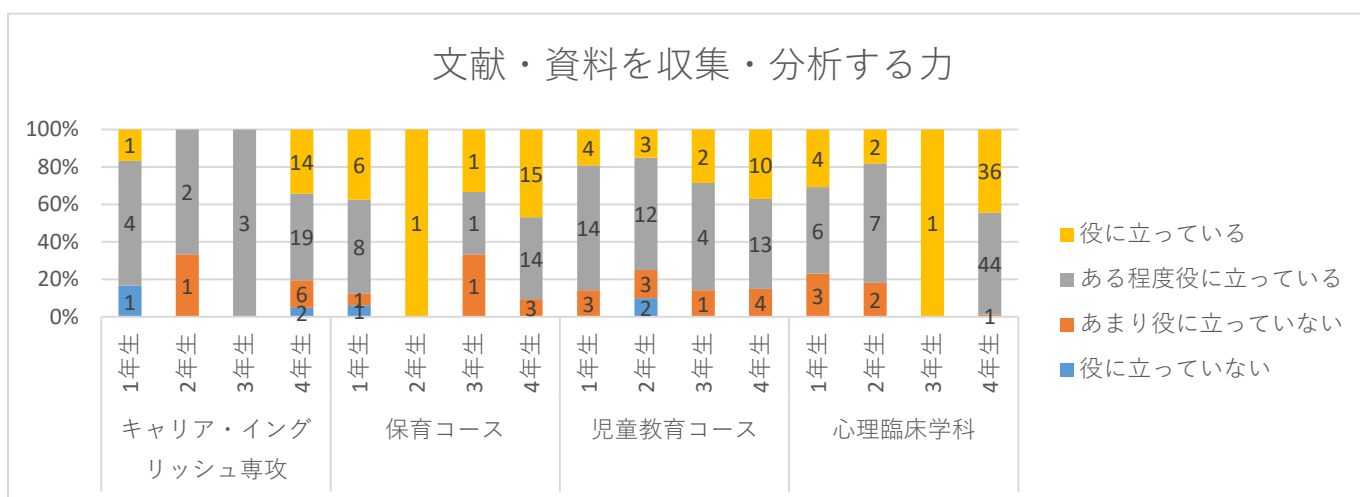
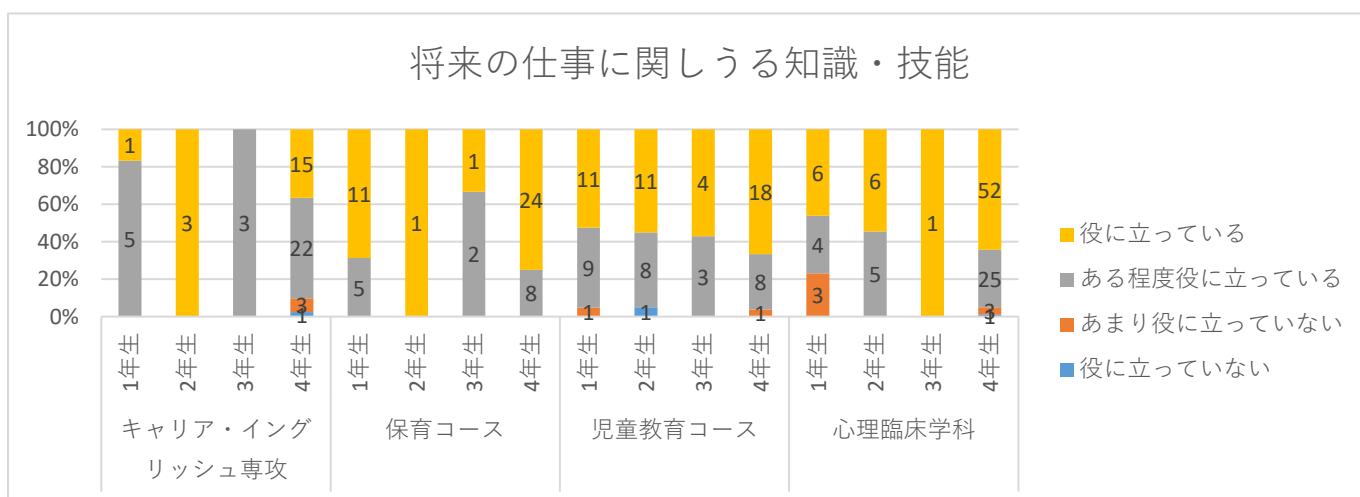
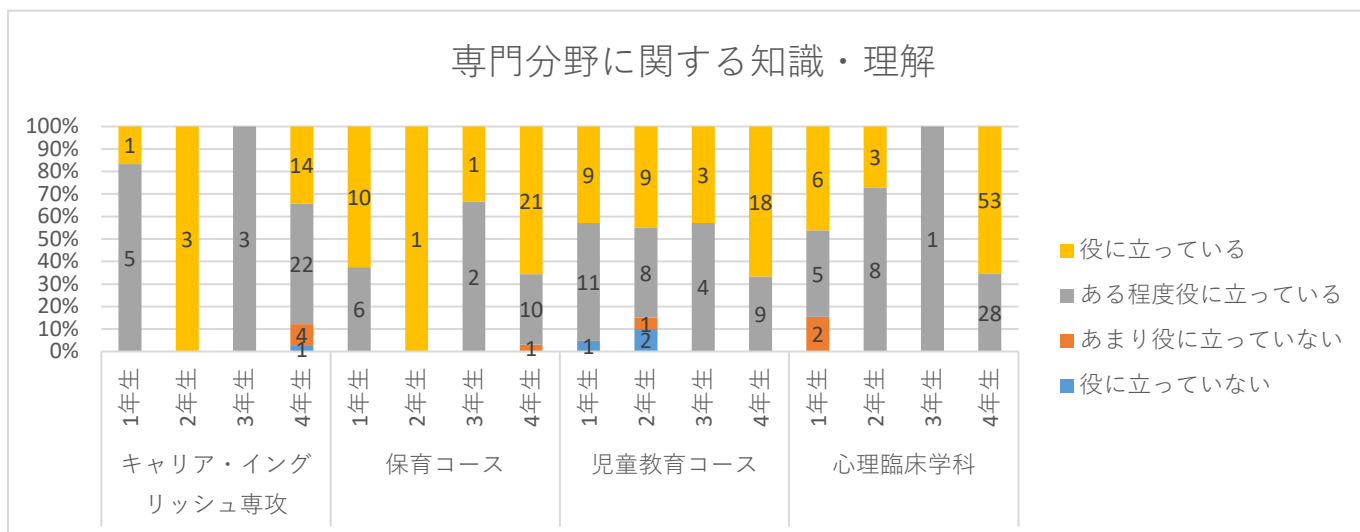
2022年度より本学の教育を受けての知識・能力の向上に関する「本学の教育を受けて、次のような知識・能力は身についたと思いますか」という質問は撤廃され、「これまでを振り返って、次の知識・能力を身に付けるために、本学の教育は役立っていたと思いますか。」という質問と統合されました。2021年度までのデータを見ると「身についたと思いますか」という質問と比較して平均値が0.5ポイント程度ずつ高くなる傾向があります。

各項目に挙げる知識・能力を身に着けることに対して大学教育が役立っているか否かを、「1.役に立っていない」「2.あまり役に立っていない」「3.ある程度役に立っている」「4.役に立っている」の4件法で質問し、回答者数に対する平均値を求めました。2021年度と比較して大きく変化した点は見られません。

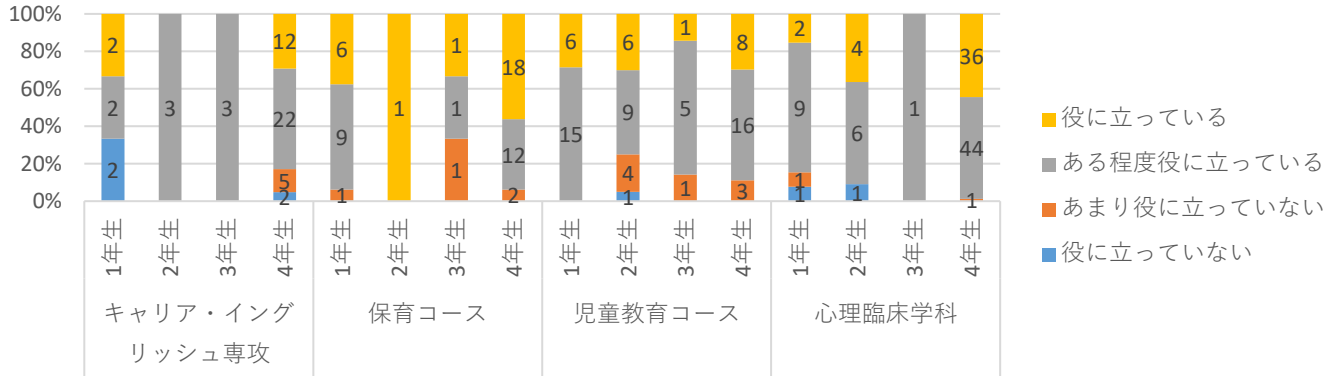


各学年・学科・専攻・コースごと

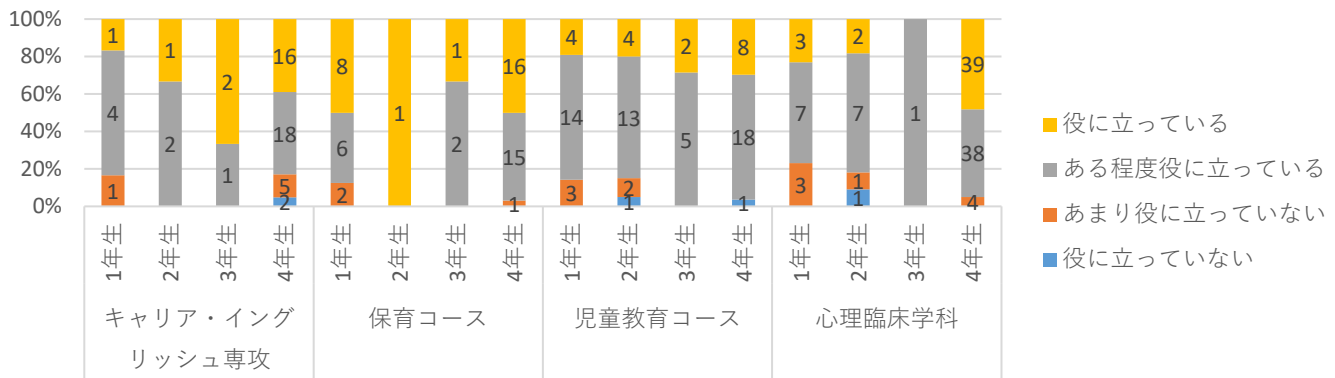
各学年および各学科・専攻・コースの各項目の分布は下図のとおりです。



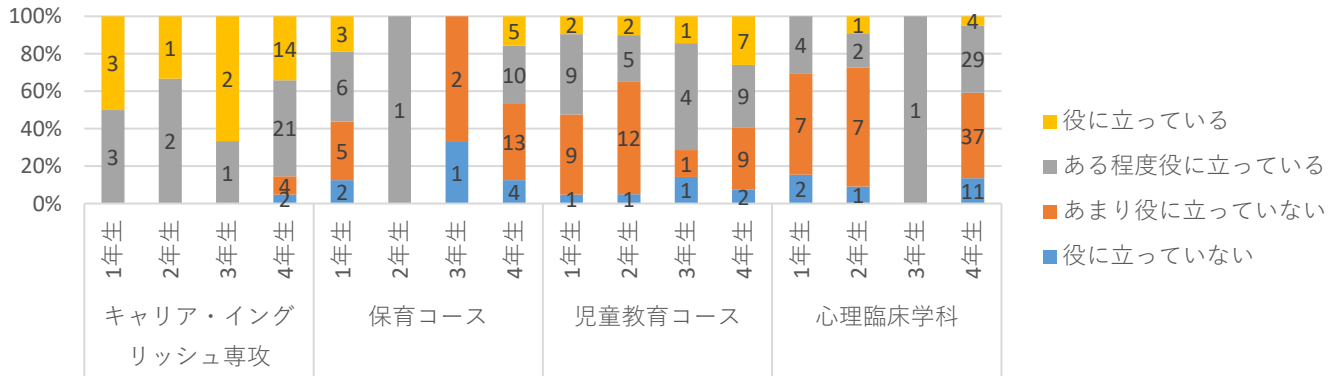
論理的に文章を書く力



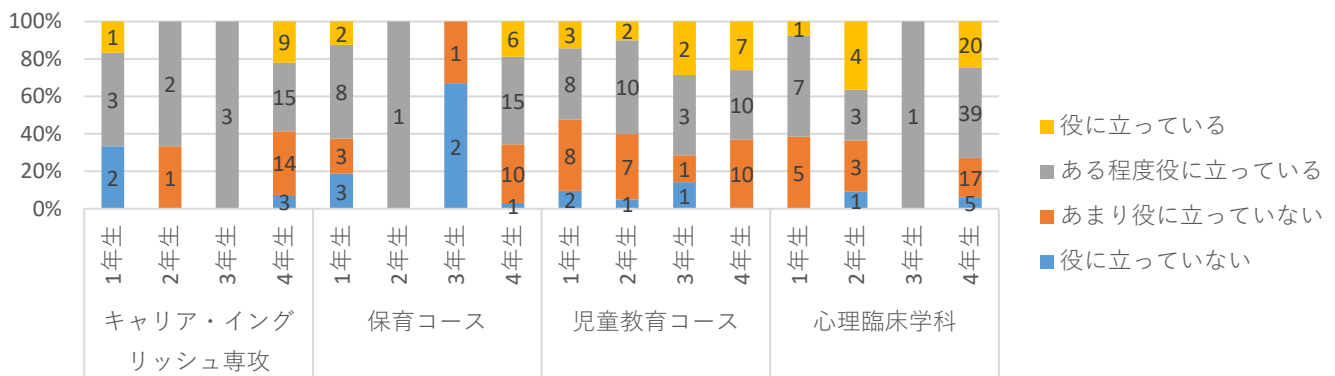
人に分かりやすく話す力



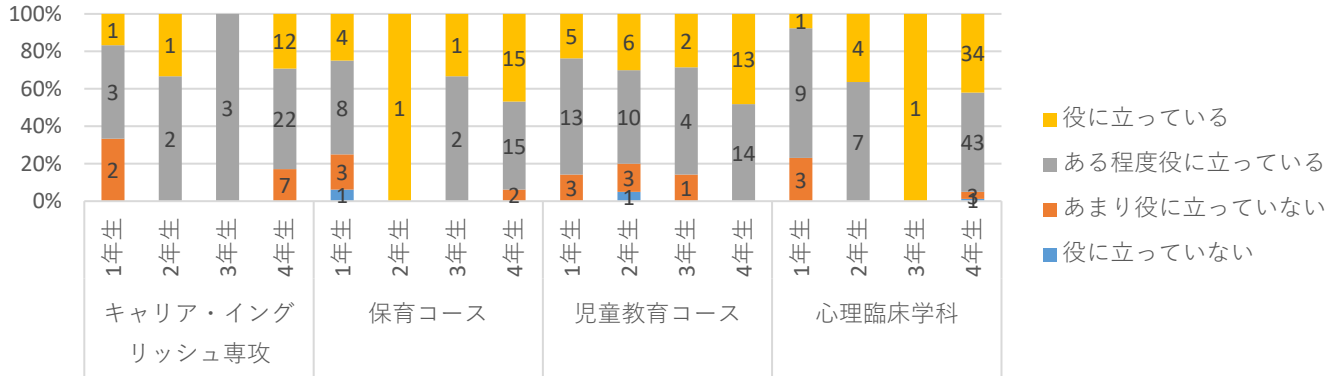
外国語を使う力



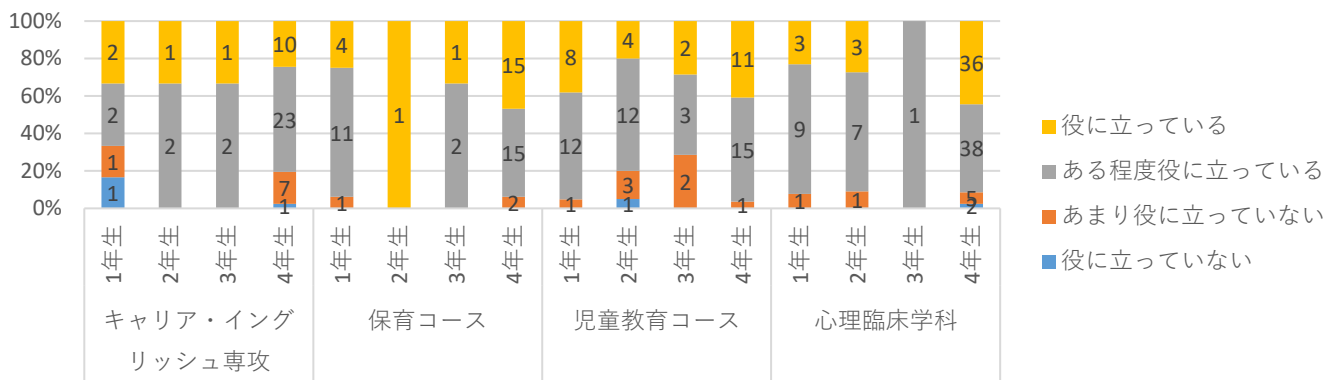
統計などデータサイエンスの知識・技能



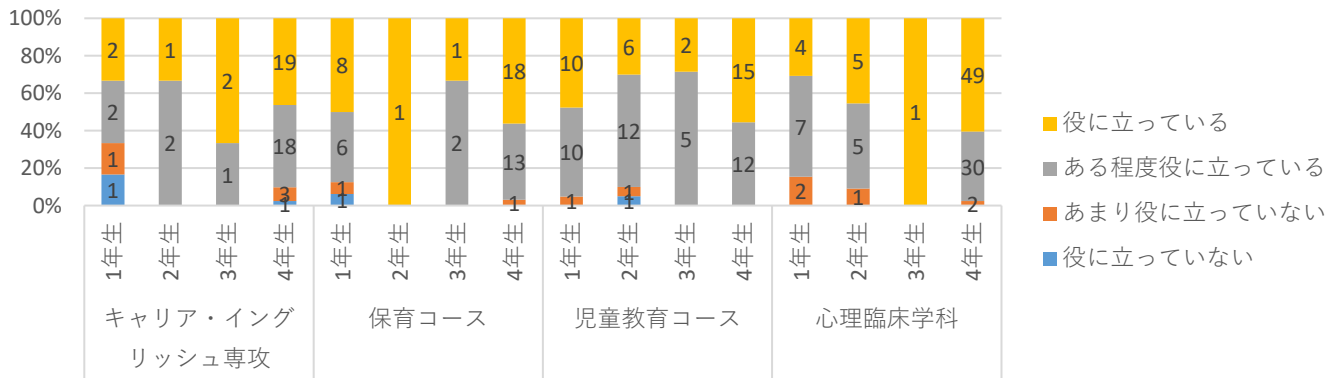
問題を見つけ、解決方法を考える力



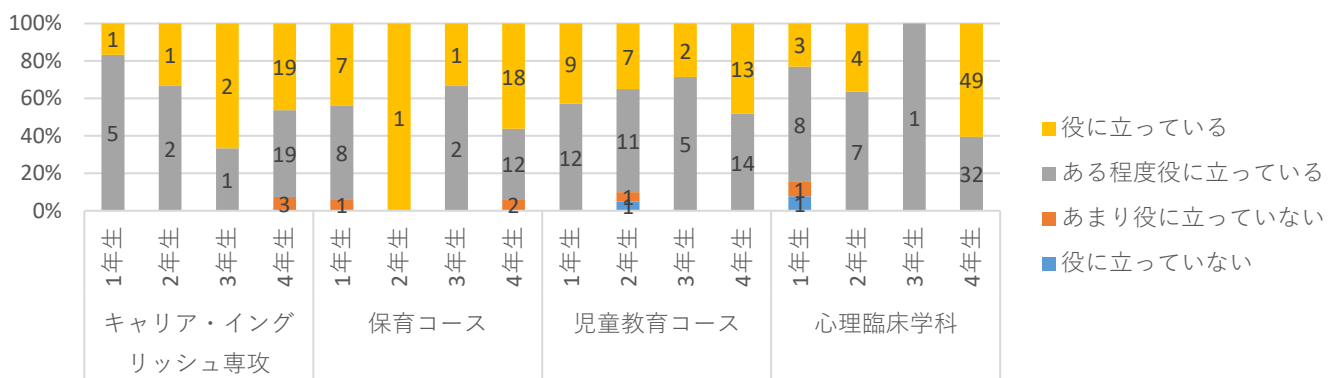
答えのない問題を自分の頭で考え抜く力



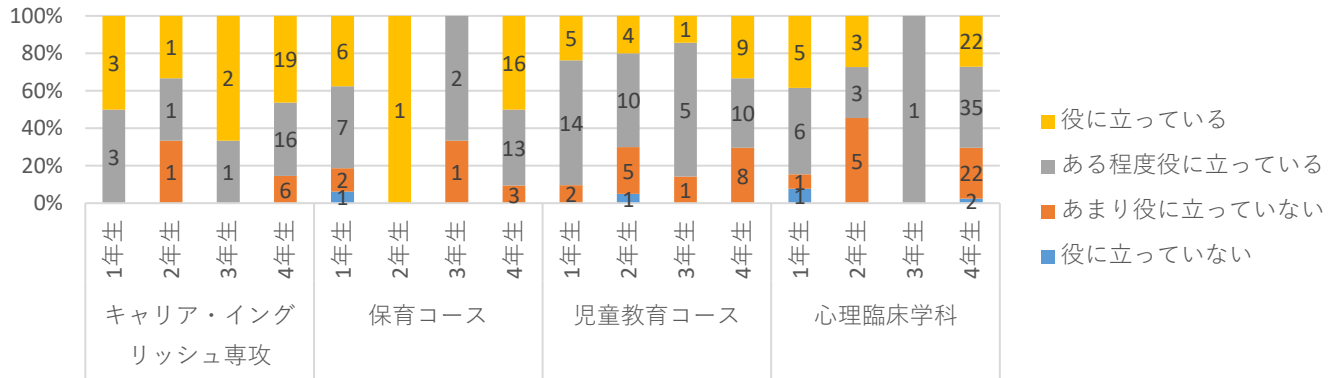
多様な人々の理解を得ながら協働する力



幅広い知識、ものの見方



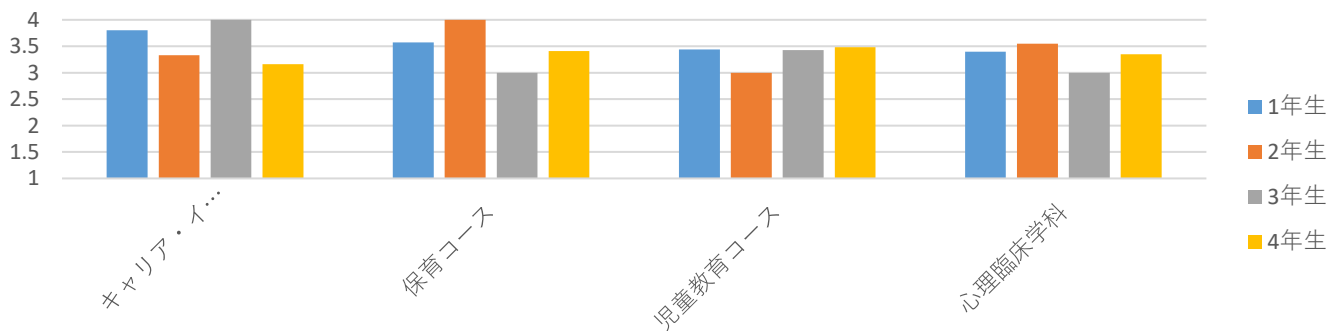
異なる文化に関する知識・理解



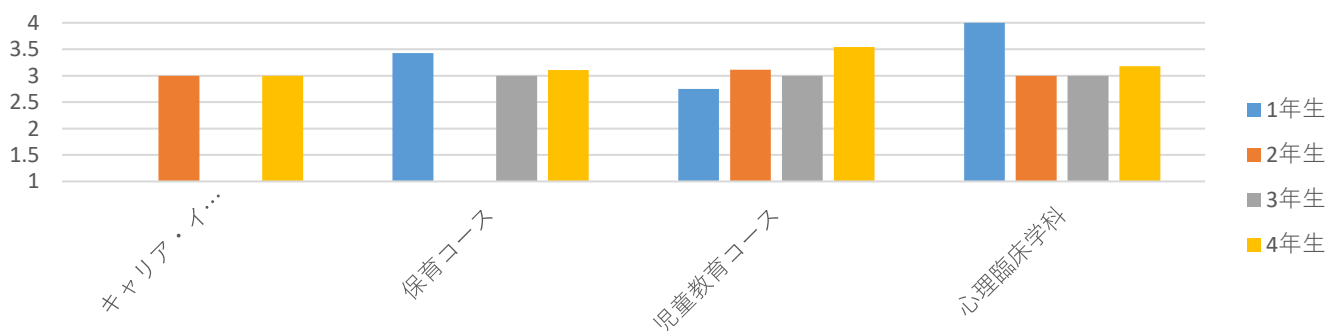
施設・サービス満足度

学内施設およびサービスに対する満足度に関して、「まったく満足していない」「あまり満足していない」「まあまあ満足している」「とても満足している」「利用していない」の5件法で質問し、「利用していない」以外の回答に関して、「1. まったく満足していない」「2. あまり満足していない」「3. まあまあ満足している」「4. とても満足している」と点数化し、その平均値を求めました。

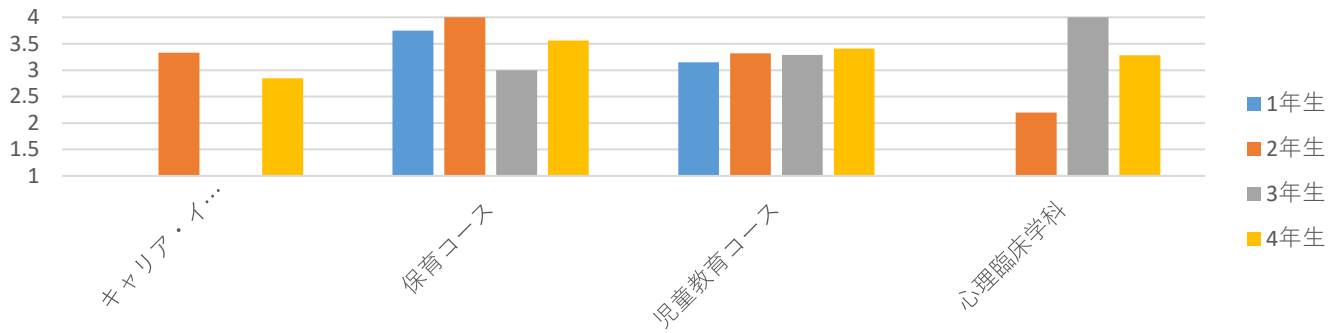
図書館の設備やサービス



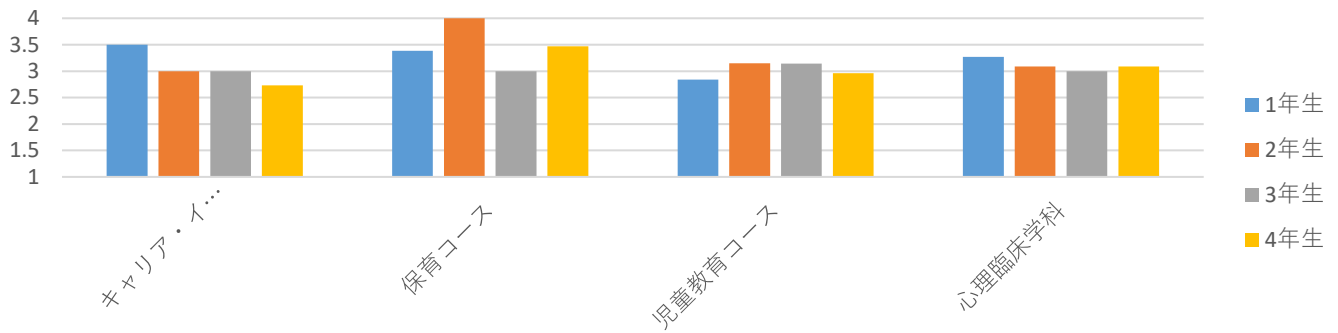
実習室・実験室の設備・器具



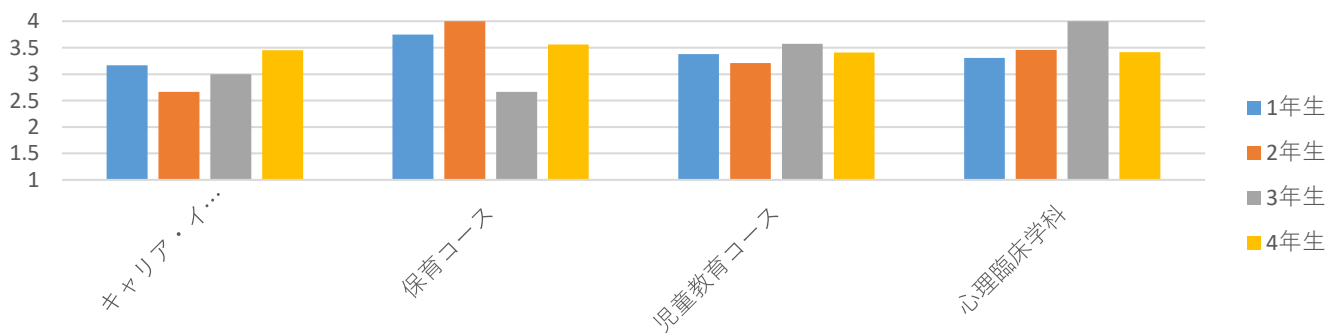
ピアノ室（台数など）



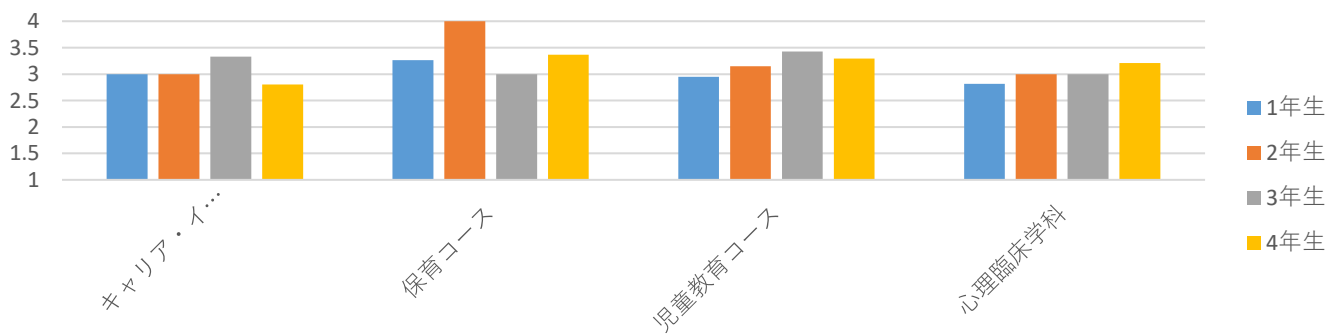
コンピュータの施設・設備（情報処理室など）



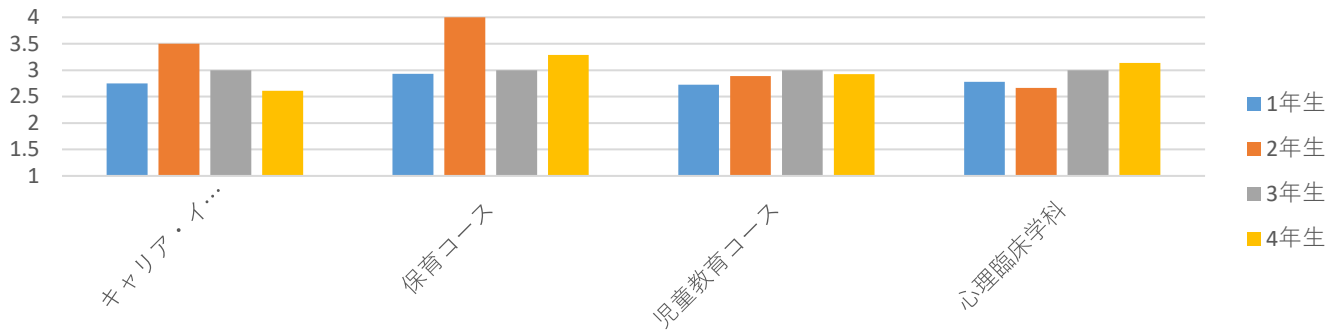
フリーWi-Fi（無線LANを利用した無料ネットサービス）



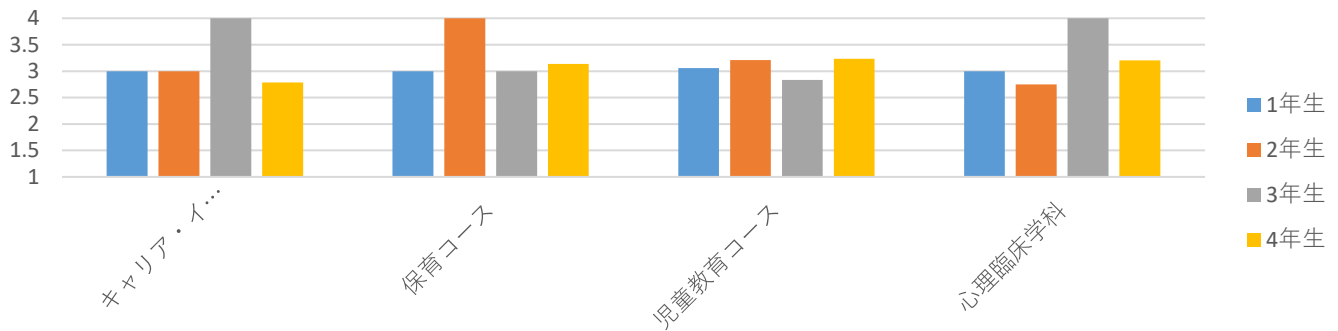
売店の設備やサービス



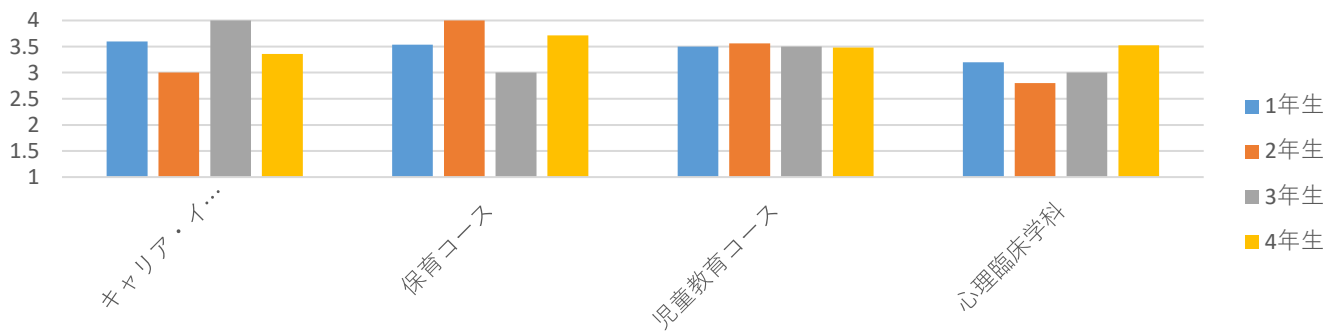
食堂の設備やサービス



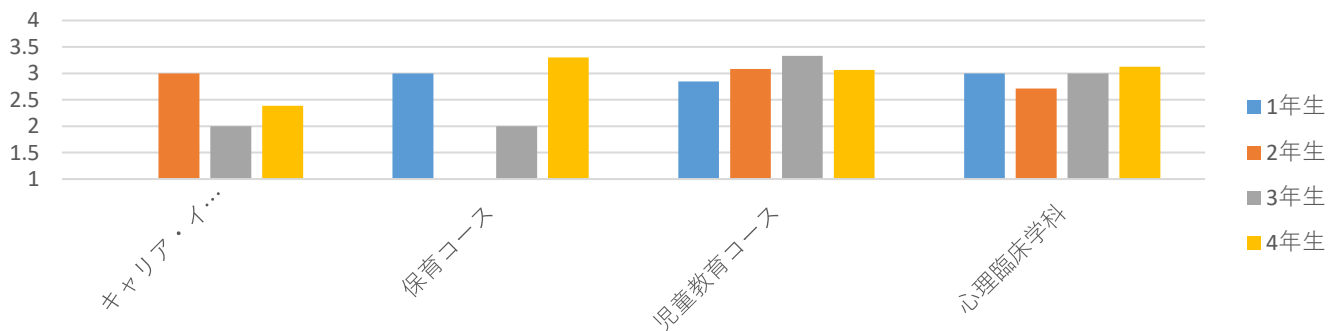
レクリエーション施設（体育館などの設備）



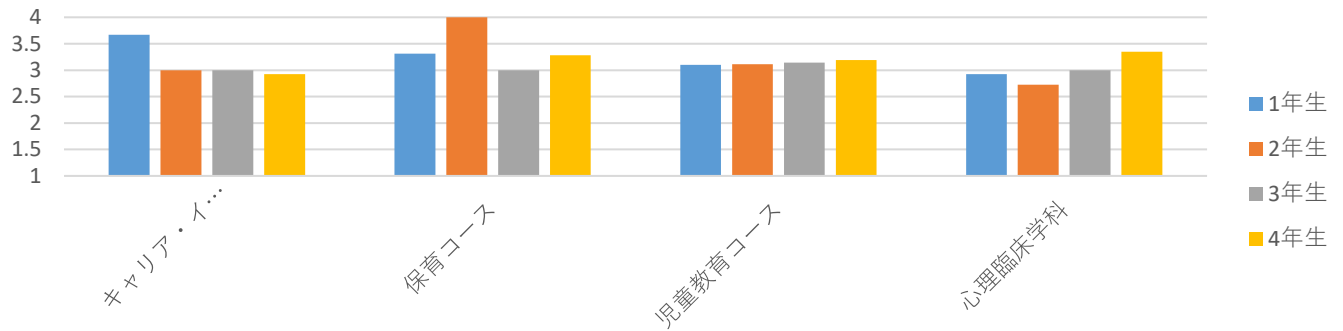
ラーニングコモンズ



部室・自治会室



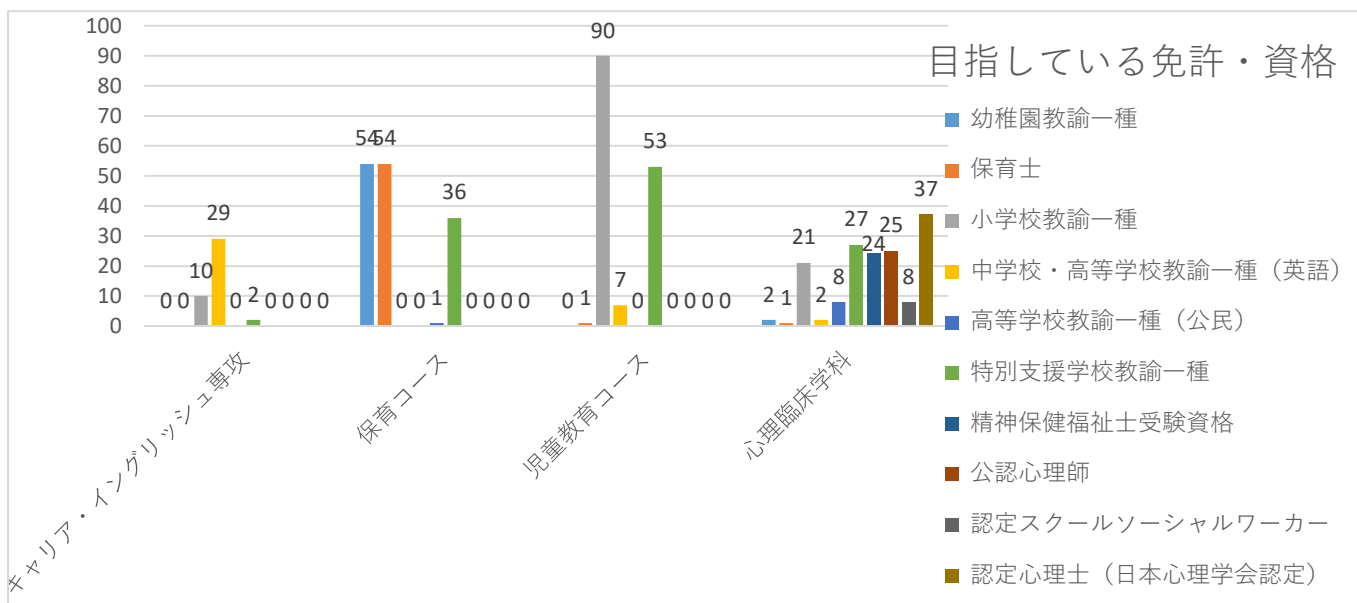
授業で使用する教室全般



資格取得希望・達成状況

目指している免許・資格

学生にどのような資格を目指しているかを尋ねました。各種検定試験については別途質問しています。



TOEIC L&R

各検定等の到達等級などは毎年の受験者数の変化によるばらつきが激しく、データを読み取ることに適さないため、毎年一定以上の受験者数が見込める TOEIC L&R についてのみ、到達スコアの集計を示します。

TOEIC L&R に関して受験の有無と到達スコアの点数帯を選択させ集計しました。キャリア・イングリッシュ専攻とそれ以外に分け、学年ごとの回答者数における点数帯の選択比率を以下に示します。

